

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年6月29日

【事業年度】 第54期(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

【会社名】 レオン自動機株式会社

【英訳名】 RHEON AUTOMATIC MACHINERY CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 田代康憲

【本店の所在の場所】 栃木県宇都宮市野沢町2番地3

【電話番号】 (028)665 - 1111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 管理統括部長兼経理部長 宮岡正

【最寄りの連絡場所】 栃木県宇都宮市野沢町2番地3

【電話番号】 (028)665 - 1111(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 管理統括部長兼経理部長 宮岡正

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
決算年月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月
売上高 (千円)	17,464,566	17,162,402	21,284,972	23,023,999	25,100,383
経常利益 (千円)	1,129,846	993,463	2,118,634	2,321,521	2,520,370
親会社株主に帰属する 当期純利益又は 親会社株主に帰属する 当期純損失() (千円)	573,122	275,563	1,789,055	1,872,857	1,710,628
包括利益 (千円)	640,401	295,009	2,386,854	3,005,631	1,172,594
純資産額 (千円)	13,413,281	13,601,499	15,335,872	18,604,533	18,533,034
総資産額 (千円)	22,135,024	21,180,651	22,538,073	26,682,507	25,771,757
1株当たり純資産額 (円)	482.57	489.43	552.05	669.84	692.20
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額() (円)	20.62	9.91	64.39	67.42	61.93
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	60.6	64.2	68.0	69.7	71.9
自己資本利益率 (%)	4.4	2.0	12.4	11.0	9.2
株価収益率 (倍)	10.2	-	9.0	7.1	11.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,895,870	1,641,380	2,797,334	2,595,121	3,200,253
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	315,846	491,811	1,047,937	813,173	955,405
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,836,202	1,210,027	1,446,313	510,110	2,067,538
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	1,893,497	1,953,635	2,442,878	3,699,960	3,813,125
従業員数 (名)	928	925	999	1,010	1,027

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3 従業員数は、就業人員数を表示しております。
4 第51期(平成25年3月)の当期純損失は、繰延税金資産の取崩しによる法人税等調整額の計上等によるものであります。
5 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、当連結会計年度より、「当期純利益又は当期純損失()」を「親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する当期純損失()」としております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
決算年月	平成24年 3月	平成25年 3月	平成26年 3月	平成27年 3月	平成28年 3月
売上高 (千円)	12,497,256	11,933,414	13,436,967	14,110,167	14,815,421
経常利益 (千円)	546,252	582,379	1,334,128	1,550,201	1,868,632
当期純利益又は 当期純損失() (千円)	305,840	439,045	1,410,094	1,356,578	1,302,452
資本金 (千円)	7,351,750	7,351,750	7,351,750	7,351,750	7,351,750
発行済株式総数 (株)	28,392,000	28,392,000	28,392,000	28,392,000	28,392,000
純資産額 (千円)	13,342,865	12,808,141	14,088,634	15,868,360	15,807,565
総資産額 (千円)	20,010,475	18,440,448	19,340,823	21,410,158	20,918,952
1株当たり純資産額 (円)	480.04	460.88	507.15	571.33	590.41
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円)	5.00 (2.50)	5.00 (2.50)	7.50 (3.50)	20.00 (4.00)	19.00 (7.00)
1株当たり当期純利益金額又は 当期純損失金額() (円)	11.00	15.80	50.75	48.84	47.16
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	66.7	69.5	72.8	74.1	75.6
自己資本利益率 (%)	2.3	3.4	10.5	9.1	8.2
株価収益率 (倍)	19.1	-	11.4	9.8	14.5
配当性向 (%)	45.45	-	14.8	41.0	40.3
従業員数 (名)	696	666	656	663	673

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3 従業員数は、就業人員数を表示しております。
4 第51期(平成25年3月)の当期純損失は、繰延税金資産の取崩しによる法人税等調整額の計上等によるものであります。

2 【沿革】

当社は、昭和36年12月科学技術庁より林虎彦(現名誉会長)が確立した「流動加工理論」に発明実施化補助金が交付され、それを契機に包あん機の商品化を図り、世界の食文化の継承と発展に貢献するため、企業設立に至りました。

その後、翌年2月「R-3型」包あん機が発明され、商品の開発改良を進める一方、食品加工における新技術の開発に力をそそぎ、以下の経過を経て現在に至っております。

年月	摘要
昭和38年3月	レオン自動機株式会社設立。 自動包あん機製造販売開始。
昭和41年6月	東京営業所開所。
昭和43年9月	日本各地(札幌、仙台、名古屋、岡山、広島、福岡)に出張所を開所し、販売体制を確立する。
昭和45年6月	西ドイツ国デュッセルドルフ市に駐在員事務所を開所。
昭和45年11月	米国ニュージャージー州パラマス市に駐在員事務所を開所。
昭和48年5月	大阪・金沢に出張所を開所。
昭和49年4月	米国ニュージャージー州パラマス市に当社100%出資の現地法人レオンUSA(現連結子会社)を設立し、駐在員事務所を閉鎖。
昭和49年5月	西ドイツ国デュッセルドルフ市に当社100%出資の現地法人レオンヨーロッパ(現連結子会社)を設立し、駐在員事務所を閉鎖。
昭和49年9月	多彩な用途を持つ自動蒸ライン「USシリーズ」を製造販売開始。
昭和50年11月	パン・菓子の生産ラインのプラント「MMライン」の製造販売開始。
昭和51年11月	本社機械組立工場が操業開始。
昭和52年7月	設計開発部門、大型コンピューター室(一部部品工場)を完成。
昭和53年4月	オレンジベーカー(現連結子会社)を当社子会社として、米国カリフォルニア州に設立。
昭和53年5月	宇都宮市下金井町に食品成形機生産工場の「下金井工場」が操業開始。
昭和58年6月	ストレスフリー(無加圧)型連続自動製パンライン「HMライン」の開発に成功、製造販売開始。
昭和59年5月	ARCOS(経営管理システム)コンピューターシステムの開発稼働 (ARCOSとはAll Rheon Computer Online Systemの意味)。
昭和60年6月	株式会社レオンアルミ(現連結子会社)を当社子会社として栃木県下野市(旧下都賀郡石橋町)に設立。
昭和60年11月	当社株式を社団法人日本証券業協会東京地区協会に店頭売買銘柄として登録、株式を公開。
昭和61年6月	「包あん機 208型」製造販売開始。
昭和62年2月	当社株式を東京証券取引所市場第二部に上場。
昭和62年3月	「火星人CN100型」製造販売開始。
昭和63年1月	栃木県宇都宮市(旧河内郡上河内村)に当社主力工場として「上河内工場」が操業開始。
昭和63年4月	レオンヨーロッパ新社屋完成。
昭和63年8月	製品、仕入商品、部品等の流通を円滑に行うため本社隣接地に「物流センター」を新設。
昭和63年10月	米国ノースカロライナ州にオレンジベーカー シャーロット工場完成。

年月	摘要
平成元年 8月	東京都港区東麻布に食品の実験ショールームや技術情報などを提供する「レオンプラザ東京」を新設。
平成元年 9月	当社株式を東京証券取引所市場第一部に上場。
平成 2年 5月	名古屋出張所自社ビル完成。
平成 2年 9月	札幌出張所自社ビル完成。
平成 2年11月	大阪、名古屋出張所を営業所へ昇格。
平成 2年12月	台北支店開店。
平成 3年 7月	東京営業所をレオンプラザ東京内に併設移転開所。
平成 4年 9月	大阪営業所自社ビル完成。
平成 6年 4月	福岡出張所を営業所へ昇格。
平成 9年 6月	「ストレスフリーV4ドウフィーダー」を'97国際食品工業展で発表。
平成11年 6月	本社敷地内にレオロジー記念館完成。
平成11年10月	多種多様な製パンが可能なVMシステムの開発に成功、製造販売開始。
平成12年 8月	「火星CN500型」製造販売開始。
平成13年 2月	米国カリフォルニア州にオレンジベーカーリー パーカー工場完成。
平成14年 4月	米国カリフォルニア州アーバイン市にレオンUSA本社を移転。
平成15年 1月	食パン自動生産ライン「VM1500」製造販売開始。
平成18年 4月	有限会社ホシノ天然酵母パン種の株式を取得、子会社化(現連結子会社)。
平成19年 1月	台北支店を増床移転開店。
平成19年 6月	米国ニュージャージー州テーターボロ市にレオンUSA東部事務所開所。
平成20年 1月	台北市に当社100%出資の現地法人 レオンアジア(現連結子会社)を設立し、台北支店を閉店。
平成21年 6月	「火星CN570型」製造販売開始。
平成21年 7月	「上河内工場」内に新工場を建設し「本社工場」「下金井工場」「物流センター」の機能を上河内工場に移転。
平成21年11月	福岡営業所自社ビル完成。
平成22年 1月	中華人民共和国上海市に駐在員事務所を開所。
平成22年 6月	「マルチコンフェクショナー」製造販売開始。
平成23年11月	「火星CN580型」製造販売開始。
平成23年11月	米国カリフォルニア州アーバイン市にレオンUSA本社を移転。(自社ビル取得)
平成24年 1月	「火星CN020型」製造販売開始。
平成24年 4月	金沢出張所を閉所し名古屋営業所へ統合、広島出張所を閉所し岡山出張所へ統合、同時に岡山出張所を営業所へ昇格。
平成25年 1月	「メガフォーマー」製造販売開始。
平成25年 3月	「パンチラウンダーVR250ライン」製造販売開始。
平成26年 2月	「2列火星WN155型」製造販売開始。
平成26年10月	「包あん機AN210型」製造販売開始。
平成26年11月	「EZデバイダー」製造販売開始。
平成27年 2月	単元株式数を1,000株から100株へ変更。
平成27年 8月	自動包あん機「105型」が日本機械学会の「機械遺産」に認定される。

3 【事業の内容】

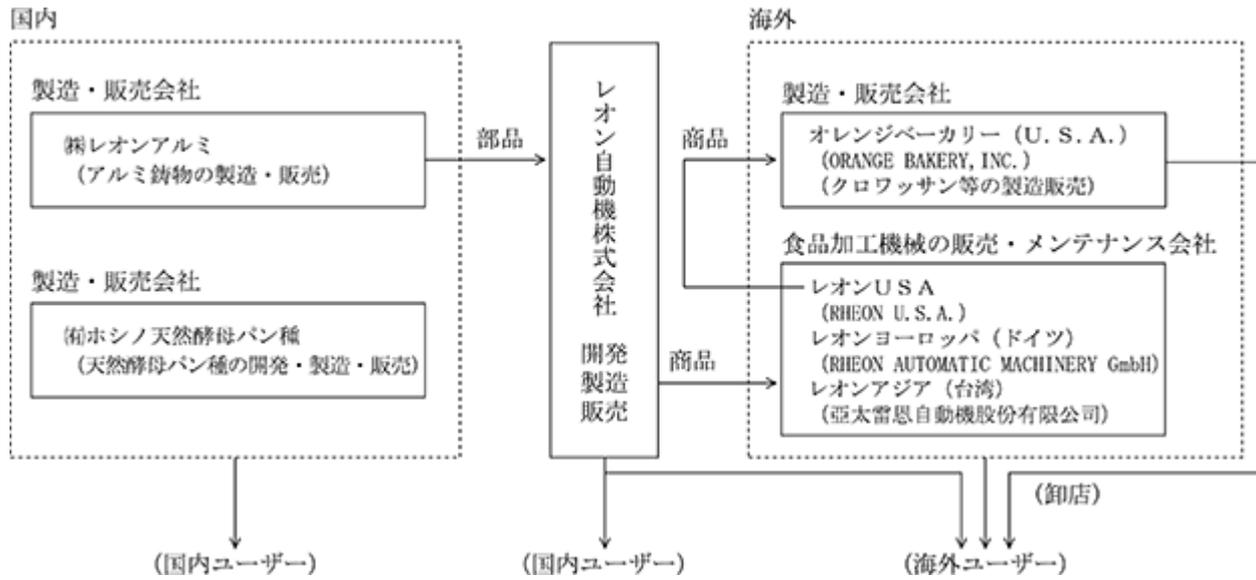
当社グループ(当社および当社の関係会社)は、当社と子会社6社で構成され、主として食品加工機械の開発・製造・販売を行っており、そのほか食品の製造販売の事業活動を展開しております。

当社グループの事業内容および当社と関係会社の位置付けならびにセグメントとの関連は、次のとおりであります。

区分		主要な事業内容および商品	主要な会社
食品加工機械 製造販売事業	日本	食品加工機械の開発(日本のみ)・製造(日本のみ)・販売 ・食品成形機(万能自動包あん機、火星人、ロボットEP)の開発(日本のみ)・製造(日本のみ)・販売 ・製パンライン等(ストレスフリーV4システム、ストレスフリーVMシステム、V4フリーデパイダー、ツインデパイダー、パンチラウンダー、VR250ライン、パラエティー成形ライン、EZデパイダー、ピザストレッチャー、ADライン、コンパクトADライン、リングエクストルーダーライン、MMライン、HMライン、EZテーブルライン、コンパクトEZテーブル、マルチヘッドインクラスターライン、マルチコエクストルーダーライン、マルチコンフェクショナー、メガフォーマー、USライン、ミニスチーマー、コンパクトパンナー、クワトロフォーマー、マルチサンドライン、ラックBOXスチーマー、卓上型ガトーデポ)の開発(日本のみ)・製造(日本のみ)・販売	当社 (株)レオンアルミ
	北米・南米		レオンUSA
	ヨーロッパ		レオンヨーロッパ(ドイツ)
	アジア	・修理その他(部品、オプション、技術指導料、修理工賃) ・仕入商品(オープン、ミキサー、包装機等の他社よりの仕入商品)	当社 レオンアジア(台湾)
食品製造販売 事業	北米・南米	・当社の機械のモデル工場として、当社の機械および生産システムを使用してのクロワッサン、デニッシュペストリー、クッキー類、冷凍ロールイン生地等の高加工度冷凍食品の製造販売	オレンジベーカーリー(U.S.A.)
	日本	・天然酵母パン種の開発・製造・販売	(有)ホシノ天然酵母パン種

(注) 主な事業内容とセグメント情報における事業区分は同一であります。

以上の事業系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

連結子会社

平成28年3月31日現在

名称	住所	資本金 又は 出資金	主要な事業 の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
レオンUSA (RHEON U.S.A.) (注)1	2 Doppler Irvine, California U.S.A.	千US\$ 9,000	食品加工機械 の販売	100 ()	当社商品の販売 役員の兼任3名 出向社員8名
レオンヨーロッパ (RHEON AUTOMATIC MACHINERY GmbH) (注)1,3,5	Tiefenbroicher Weg 30 40472 Dusseldorf F.R.Germany	千EUR 3,000	食品加工機械 の販売	100 ()	当社商品の販売 出向社員8名
レオンアジア (亞太雷恩自動機 股分有限公司)	台北市内湖區新湖二路 180號3樓 台湾	千台湾\$ 15,000	食品加工機械 の販売	100 ()	当社商品の販売 役員の兼任3名 出向社員3名
㈱レオンアルミ	栃木県下野市下古山2963	75,000 千円	アルミ鋳物の 製造販売	100 ()	出向社員1名
オレンジベーカリー (ORANGE BAKERY, INC.) (注)1,4,5	17751 Cowan Avenue Irvine, California U.S.A.	千US\$ 15,200	パン・菓子の 製造販売	100 ()	当社商品の購入 役員の兼任2名 出向社員6名
(有)ホシノ天然酵母パン種	東京都町田市小野路町 2278-3	95,000 千円	天然酵母パン種 の製造販売	100 ()	役員の兼任1名 出向社員2名

(注) 1 特定子会社に該当いたしません。

2 上記各社は有価証券届出書または有価証券報告書提出会社ではありません。

3 レオンヨーロッパについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

(1) 売上高	2,844,386千円
(2) 経常利益	189,494千円
(3) 当期純利益	130,540千円
(4) 純資産額	1,711,988千円
(5) 総資産額	2,203,365千円

4 オレンジベーカリーについては、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等

(1) 売上高	8,224,360千円
(2) 経常利益	434,038千円
(3) 当期純利益	322,845千円
(4) 純資産額	3,783,216千円
(5) 総資産額	5,301,333千円

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成28年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
食品加工機械製造販売事業	
日本	636
北米・南米	26
ヨーロッパ	40
アジア	8
小計	710
食品製造販売事業	
北米・南米	210
日本	50
小計	260
全社(共通)	57
合計	1,027

- (注) 1 従業員数は就業人員を表示しております。
 2 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成28年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
673	45.8	22.3	6,742,674

セグメントの名称	従業員数(名)
食品加工機械製造販売事業	
日本	616
全社(共通)	57
合計	673

- (注) 1 従業員数は就業人員を表示しております。
 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 3 国内子会社および海外子会社への出向者は含まれておりません。
 4 全社(共通)は、管理部門の従業員数であります。

(3) 労働組合の状況

当社の労働組合は、日本金属製造情報通信労働組合(JMITU)に加盟しており、JMIUレオン自動機支部と称し、宇都宮地区労働組合会議(協議団体)に所属しております。組合員は11名であります。

当社以外のグループ各社について、労働組合は結成されておりません。

なお、労使関係については特に記載すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、原油安による物価上昇率の低下に伴う実質所得の押し上げなどから個人消費が持ち直しているものの、そのペースは緩やかでした。また、政府主導の経済政策や日銀の金融緩和策の効果もあり、企業収益や設備投資、雇用情勢が改善するなど、緩やかな回復基調で推移しました。

海外におきましては、米国では景気の拡大が継続しました。欧州では原油安が実質所得を押し上げ、個人所得が底堅く推移しながらも、中国の需要減速などで輸出の伸びは鈍っており、緩やかな回復となりました。また、中国、新興国の経済成長率は減速しており、依然として不透明な状況が続いております。

当社グループが市場とする食品業界は、消費の低迷による商品の低価格化や差別化などの課題をかかえております。また、食の安全性、健康志向の増大、環境問題など市場のニーズが多様化しております。

このような状況の下で当社グループは、変化する市場環境や経営環境に対応するため、市場動向を調査し、レオロジー（流動学）を基礎とする当社独自の開発技術の商品化により、食品機械のより一層の標準化推進と、安全性の向上を図るとともに、多様な消費者ニーズに対応できる商品群を国内および海外の食品業界へ提案してまいりました。

当連結会計年度における売上高は25,100百万円（前年同期比9.0%増）、営業利益は2,370百万円（前年同期比7.6%増）、経常利益は2,520百万円（前年同期比8.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は1,710百万円（前年同期比8.7%減）となりました。

報告セグメント別の状況につきましては、次のとおりであります。

【食品加工機械製造販売事業】

国内市場では、食品成形機において「火星人 CN580型」、「セットパンナー KP301型、KP302型」、新型の「重合ノズルソニックスライサー SK100型」が和洋菓子業界向けに販売が好調でした。また、「2列火星人 WN155型」の調理食品業界への販売が好調で、新機種「包あん機 AN210型」への買替需要もあり、売上が前年より増加しました。製パンライン等においては、品質アップやバラエティー化に対応した「ドーナツライン」、「菓子パンライン」、「ピザライン」、「サブレスンドライン」や「ペストリーライン」などの販売がありましたが、売上は前年より減少しました。なお、コンビニエンス向けへの販売は引き続き好調に推移しております。以上により、国内全体の外部顧客への売上高は、前年同期比1.2%増加しました。

アメリカ市場では、食品成形機において「火星人 KN550型」の調理食品業界やエスニック市場への販売があり、売上は前年より増加しました。製パンライン等においては、「クッキー生産ライン」、「ブレッドライン」、「ピザライン」の販売があり、売上は前年より増加しました。以上により、アメリカ全体の外部顧客への売上高は、現地通貨ベースでは前年同期比1.9%増加し、円ベースでは前年同期比11.4%増加しました。

ヨーロッパ市場では、食品成形機において調理食品を生産する「火星人 KN550型」、クッキー等の菓子を生産する「火星人 KN171型」の販売が好調で、売上が前年より増加しました。製パンライン等においては、南欧・中東で大型の「ブレッドライン」、「クッキー生産ライン」の販売がありました。また、ドイツでは、ブレッド生産用の「ストレスフリーデバイダー VX212型」の販売が好調で売上が前年より増加しました。以上により、ヨーロッパ全体の外部顧客への売上高は、現地通貨ベースでは前年同期比14.5%増加し、円ベースでは前年同期比9.4%増加しました。

アジア市場では、食品成形機において中国・台湾で月餅や中華まんを生産する「火星人 KN550型」、中国でミニパンを生産する「火星人 CN511型」の販売が好調で、売上は前年より増加しました。製パンライン等においては、中国、香港、フィリピンで高品質なパンの需要に対応した「VM製パンライン」、韓国で調理食品を生産する「メガフォーマー」、シンガポールで「ブレッドライン」の販売があり、売上が前年より増加しました。以上により、アジア全体の外部顧客への売上高は、前年同期比19.6%増加しました。

修理その他は、国内、海外ともに売上が前年より増加しました。

〔食品製造販売事業〕

アメリカのオレンジベーカリーでは、バタークロワッサンの販売が好調であったことと、既存顧客へのパイ、デニッシュペストリーなどの販売量増加により、外部顧客への売上高は、現地通貨ベースでは前年同期比5.6%増加し、円ベースでは前年同期比15.5%増加しました。

国内の(有)ホシノ天然酵母パン種においては、国内大手ユーザー向けのホシノ天然酵母パン種需要が増加したことにより、外部顧客への売上高は、前年同期比10.2%増加しました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

食品加工機械製造販売事業(日本)

日本国内は、食品成形機、修理その他の売上が増加したことにより、外部顧客に対する売上高は9,267百万円(前年同期比1.2%増)となりました。また、売上原価率が1.6%改善したことにより、セグメント利益(営業利益)は2,485百万円(前年同期比8.9%増)となりました。

食品加工機械製造販売事業(北米・南米)

アメリカ地域は、食品成形機、製パンライン等、修理その他の売上が増加したことにより、現地通貨ベースでは、前年同期に比べ1.9%増加しました。円ベースでは、円換算に使用するUSドルの期中平均レートが109円93銭から120円14銭と円安になったことにより、外部顧客に対する売上高は2,036百万円(前年同期比11.4%増)となりました。また、販売費及び一般管理費が、現地通貨ベースで6.7%増加しましたが、売上原価率が、現地通貨ベースで2.4%改善したことにより、セグメント利益(営業利益)は84百万円(前年同期比81.4%増)となりました。

食品加工機械製造販売事業(ヨーロッパ)

ヨーロッパ地域は、食品成形機、製パンライン等、修理その他の売上が増加したことにより、現地通貨ベースでは、前年同期に比べ14.5%増加しましたが、円ベースでは、円換算に使用するユーロの期中平均レートが138円77銭から132円58銭と円高になったことにより、外部顧客に対する売上高は2,844百万円(前年同期比9.4%増)となり、セグメント利益(営業利益)は103百万円(前年同期比45.2%増)となりました。

食品加工機械製造販売事業(アジア)

アジア地域は、食品成形機、製パンライン等、修理その他、仕入商品の売上が増加したことにより、外部顧客に対する売上高は2,234百万円(前年同期比19.6%増)、セグメント利益(営業利益)は729百万円(前年同期比34.8%増)となりました。

食品製造販売事業(北米・南米)

バタークロワッサンの販売が好調であったことと、既存顧客への販売数量が増加したことにより、現地通貨ベースでは、前年同期に比べ5.6%増加しました。円ベースでは、円換算に使用するUSドルの期中平均レートが109円93銭から120円14銭と円安になったことにより、外部顧客に対する売上高は8,224百万円(前年同期比15.5%増)となりました。販売先に対する売掛金の内容を慎重に検討した結果、貸倒引当金513百万円を計上したことにより、販売費及び一般管理費が現地通貨ベースで67.7%増加し、セグメント利益(営業利益)は455百万円(前年同期比39.3%減)となりました。

食品製造販売事業(日本)

国内大手ユーザー向けのホシノ天然酵母パン種需要が増加したことにより、外部顧客に対する売上高は493百万円(前年同期比10.2%増)となりました。また、売上原価率が6.9%改善したことにより、セグメント利益(営業利益)は118百万円(前年同期比136.8%増)となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、3,813百万円（前年同期113百万円増）となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は3,200百万円（前年同期605百万円増）となりました。

これは、主に税金等調整前当期純利益が2,520百万円、減価償却費が889百万円、売上債権の減少が104百万円、たな卸資産の増加が154百万円、仕入債務の増加が243百万円などによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は955百万円（前年同期142百万円増）となりました。

これは、主に有形固定資産の取得による支出が896百万円、無形固定資産の取得による支出が137百万円などによるものであります。設備投資の主なものは、当社においては建物及び構築物などであり、オレンジベーカーリーにおいては建物附属設備、製造用機械装置などであり、

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は2,067百万円（前年同期1,557百万円増）となりました。

これは、長期借入金の返済による支出が654百万円、自己株式の取得による支出が605百万円、配当金の支払が638百万円などによるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同期比(%)
食品加工機械製造販売事業		
日本	14,116,229	+ 5.5
小計	14,116,229	+ 5.5
食品製造販売事業		
北米・南米	6,761,997	+ 20.1
日本	493,314	+ 10.2
小計	7,255,311	+ 19.4
合計	21,371,541	+ 9.8

(注) 1 金額は販売価格によっており、セグメント間の内部振替前の数値によっております。

2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当連結会計年度における受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同期比(%)	受注残高(千円)	前年同期比(%)
食品加工機械製造販売事業				
日本	10,799,317	+ 7.0	3,402,879	+ 72.4
北米・南米	2,238,411	+ 54.2	528,644	+ 52.9
ヨーロッパ	3,447,667	+ 37.2	995,865	+ 142.4
アジア	2,598,681	+ 37.1	509,776	+ 258.6
小計	19,084,077	+ 19.6	5,437,166	+ 89.3
食品製造販売事業				
北米・南米	8,544,640	+ 17.5	-	-
日本	493,314	+ 10.2	-	-
小計	9,037,954	+ 17.1	-	-
合計	28,122,032	+ 18.8	5,437,166	+ 89.3

(注) 1 金額は販売価格によっており、セグメント間の取引については相殺消去しております。

2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
食品加工機械製造販売事業		
日本	9,267,301	+1.2
北米・南米	2,036,134	+11.4
ヨーロッパ	2,844,386	+9.4
アジア	2,234,932	+19.6
小計	16,382,755	+6.0
食品製造販売事業		
北米・南米	8,224,360	+15.5
日本	493,267	+10.2
小計	8,717,628	+15.1
合計	25,100,383	+9.0

- (注) 1 セグメント間の取引については相殺消去しております。
2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
3 主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
Bake One, Inc.	3,087,331	13.4	3,252,035	13.0

3 【対処すべき課題】

当社は、世界の民族食の生産機械として定着した包あん機（食品成形機）、および世界特許のストレスフリー製パンシステムのより一層の標準化により、製パンシステムの改革を図り、食品の安全性および高品質、低価格を可能にさせることにより機械売上拡大に取り組んでいき、世界の食文化に貢献する生産効率の高い多品種自動生産システムを供給してまいります。

国内市場の拡大

当社顧客においては市場拡大のため、専門分野を超えた製品や流通ニーズに応えた新製品開発が必要となっており、当社のソフト提案・用途拡大提案が重要となっております。業界別の境の無い提案を同時に行い、顧客ニーズに応え、既存顧客のみならず、新規顧客への販売拡大を図ってまいります。

海外市場の販売強化

海外市場においては、各国の食文化にあった販売活動を推し進めるため、「代理店の強化」、「各資材メーカーとの販売協力体制の強化」、「展示会による顧客ニーズの発掘強化」、「海外研修制度を活用した人材育成」を実施してまいります。

開発力の強化

開発部門では、細分化された組織を大きく「5つのグループ」に編成し、グループマネージャーがそれぞれのグループ内の課を取りまとめ、枠を超えた業務に対応できる機動力ある組織で、新機種開発の充実を図るとともに、最新の市場や顧客ニーズを把握して新製品開発に生かす情報収集の専門部署として、営業本部内の「マーケティング部」を活用し顧客視点での情報分析を行い、新機種の開発のスピードアップを図ってまいります。

生産力の強化

生産部門においては、生産本部長を配し、社外のコンサルタント導入による生産体制の根本的見直しを行い、海外市場に通用する生産力・コストダウン力を高め、品質・納期管理の徹底できる体制を強化構築してまいります。

食品製造販売事業の拡大

オレンジベーカリーでは、新商品の開発による新規顧客の獲得を図るとともに、戦略商品としてパフペストリー製品の拡販を行い、工場の稼働率アップを図ってまいります。

(有)ホシノ天然酵母パン種では、顧客の需要に応えるため新工場を建設し、生産能力のアップを図ってまいります。また、韓国、台湾、香港で研究会を開催し、(有)ホシノ天然酵母パン種の魅力を発揮できる拠点ユーザーを育ててまいります。

社会的責任

社会的責任と役割を果たすべく、低炭素社会の実現を目指し、環境保全活動も積極的に展開してまいります。当社は、日光杉並木保護活動を支援し、栃木県が発足した「日光杉並木オーナー制度」に賛同し、日光杉並木のオーナーとなりました。

4 【事業等のリスク】

以下において、当社グループの事業等のリスクについて、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項を記載しております。ただし、以下は当社グループの全てのリスクを網羅したのではなく、記載されたリスク以外のリスクも存在します。

なお、文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成28年6月29日)現在において、当社グループが判断したものであります。当社グループは、これらのリスクの発生の可能性を認識した上で、発生の回避および発生した場合の対応に努め事業活動を行っておりますが、これらの全てのリスクを完全に回避するものではありません。

為替変動について

当社グループの売上高の55%は、米ドルおよびユーロなどの外貨建てであります。米ドルおよびユーロなどの日本円に対する為替変動は、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

通期業績及び四半期業績の変動について

当社グループの売上や業績は変動が大きい場合があります。四半期ごとの経営比較はそれほど意味がなく、また、このような比較が将来の指針としては信頼のよりどころとならない可能性があります。当社グループの売上高は次にあげる主要な要因の結果により四半期ごとに変動することがあります。

- ・食品産業での菓子、パンなどは気候の状態によりその消費の大きな変動があります。
- ・菓子、パンなどの消費の端境期に設備投資を行うため周期的および季節的変動要因があります。
- ・顧客からの短納期での注文または注文のキャンセル、設備納入の日程変更等の発生による変動要因があります。

商品に対する価格低下圧力について

デフレ環境の中で、顧客の製品コストに関する低下要求が厳しくなっており、当社グループの商品の大半は、自社独自に開発されたものであるため、初期普及段階では割高感が生じる恐れがあり、当社グループの売上確保に影響を及ぼす可能性があります。

新商品開発力について

当社グループの売上のかなりの部分は革新的な新商品が占めております。将来の成長は、主に革新的な新商品の開発と販売に依存すると予想しております。当社グループは継続して斬新で魅力ある新商品を開発できると考えておりますが、社会的趣向の変化や技術的進歩の動向により以下のような様々なリスクが考えられます。

- ・新商品や新技術への投資に必要な資金と資源を、今後十分充当できない状況が発生した場合、当社グループの業績および財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。
- ・長期的な投資と大量の資源投入が成功する新商品または新技術の創造につながらない場合には、当社グループの業績および財務状況に悪影響を及ぼす可能性があります。
- ・市場からの支持を獲得できる新商品または新技術を正確に予測して機械を開発できない事態が生じた場合には、これからの商品の品揃えおよび販売に悪影響を及ぼす可能性があります。

知的財産について

当社グループでは、知的財産の重要性を認識し、多くの技術を権利化し特許および商標を保有してまいりましたが、特定の地域および国では法的制限のため特許権が完全に保護されない場合や、第三者が当社グループの特許を侵害し、類似した商品や、模倣した商品を製造・販売する場合、これらを効果的に防止できない可能性があります。

また、将来的に当社グループが第三者の特許権を侵害していると主張される可能性があります。このような状況においては、当社グループの事業活動や業績、財政状態および評判に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。

商品の欠陥による影響について

当社は、販売する商品の品質に万全を期すことに努めております。しかし、予測できない原因により商品に欠陥が生じ、リコール、クレームなどが発生しないという保証はありません。そのような事態が発生した場合には、回収費用、社会的な信用の毀損、顧客への保証や訴訟費用・賠償費用などにより、当社グループの業績および財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。なお、当社は国内および海外とも生産物賠償責任保険（PL保険）に加入しておりますが、この保険が最終的に負担する賠償額を十分にカバーできる保証はありません。

自然災害等の発生について

当社グループの本社および工場は、栃木県にあります。東日本大震災のような災害による被害も直接的あるいは間接的に受けやすい地域であるといえます。また、部品調達、生産、物流、販売、サービスといった当社の施設や事務所は、国内各地、北米、ドイツ、台北、上海にあり、自然災害や火災、コンピュータ・ウイルス、テロ攻撃といった事象に伴うライフラインの停止、停電などの影響や、災害による混乱状態が発生した場合、当社グループの拠点の設備などが大きな影響を受け、その一部または全部の操業が中断し、営業活動停止や工場操業停止となり、販売活動の阻害や、生産および出荷が遅延する可能性があります。また、損害を被った設備などの修復のために多額の費用が発生し、結果として、当社グループの事業、業績および当社の経営成績に悪影響を及ぼす可能性があります。

環境の放射能汚染に伴う輸出および販売についての影響

原子力発電所において放射性物質の漏えい事故が起きた場合に、放射線による金属製品を含む機械や部品などの工業製品の汚染により、国内および海外への販売が阻害されるリスクがあります。

コンプライアンスリスク

当社グループは、経営の優先課題として、コンプライアンス活動に取り組むよう行動基準を定め、全役職員に周知徹底を図り、リスクを認識した場合は迅速に対応する体制を整えています。

しかしながら、役職員個人による法令違反を含むコンプライアンス上の問題が生じた場合には、当社グループの業績および財政状態が影響を受ける可能性があります。

国際活動について

当社グループは、販売活動および事業活動を日本以外の地域でも行っております。こうした海外市場で活動を行う際には、以下のようなリスクが考えられます。

- ・政治的または経済的要因
- ・潜在的に不利な税の影響
- ・予想外の法的または規制面の変化

国際活動において固有のリスクに当社が十分に対処できない場合、事業・業績・財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

食品製造販売事業における特定顧客への取引集中による影響

当社グループは、食品加工機械製造販売事業の他に食品製造販売事業を営んでおります。食品製造販売事業において、売上高が特定の顧客に一時的に集中することがあり、特定顧客からの注文の著しい減少、および特定顧客の業績悪化、財政難等が発生した場合は、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

食品製造販売事業における食の安全性および品質管理の欠陥による影響について

当グループの食品製造販売事業は、食の安全性確保と食品事故の未然防止を図るため日々の品質管理に万全を期しております。しかし、予測できない原因により商品の欠陥が生じ、リコール、クレームなどが発生しないという保証はありません。そのような事態が発生した場合は、回収費用、社会的な信用の毀損、顧客への補償や訴訟費用・賠償費用などにより、当社グループの業績および財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

当連結会計年度において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

6 【研究開発活動】

当社の研究開発活動は、従来より市場開発型企業の特徴を活かし、消費者の食品嗜好の多様な市場ニーズに対応すべく、食品の基礎研究および食品加工技術開発の両面から日常的に研究開発を重ね、当該技術を市場に提供していることに加え、今後さらに環境に配慮した生産技術を開発すべく鋭意努力しております。

当連結会計年度における研究開発費は、723百万円となっており、主な活動の状況は以下のとおりであります。

〔食品加工機械製造販売事業〕

食品成形機および製パンライン等の構成機械とラインシステムの研究開発、ならびにこれら機械システムを用いて生産される食品の研究開発を行っております。

食品成形機においては、万能タイプの包あん機「火星入 CN580型」や海外向け包あん機「火星入 KN550型」などが順調に販売を伸ばしております。これらのオプションとして「重合ノズルソニックスライサー SK100型」を開発し、モザイククッキーの成形性能を向上させました。また、後続となる成形装置の研究開発を進め、火星入の販売に繋げております。特に中華まんラインの後続機としては、「中華まんヒダ付け装置 NU032型」に改良を施してヒダの精度向上を図りました。「高速包あん成形機メガフォーマー」は吐出の改良研究を進め、重量精度を向上させました。

製パンライン等においては、「ツインデバイダー VX212型」が欧州で順調に伸びており、高品質なブレッドの分割に使用されております。更にお客様のニーズの変化に対応できるよう改良を加えました。また、リテールベーカリー向けには、食パン・菓子パン生地にダメージを与えず、秤量・分割 ができる小型分割機「EZデバイダー CX011型」の販売も順調に伸びており、市場に認知されてきております。使い勝手、重量精度の研究などを続け、更に進化させております。

〔食品製造販売事業〕

当社グループのオレンジベーカリーにて開発した新製品を、現地の市場で販売することを通じて顧客ニーズの調査・研究を行い、より市場に求められる製品の開発と、それらを生産するための食品加工機械の開発に役立てています。また、新しい天然酵母パン種の研究、天然酵母パン種の活用方法を拡大するための応用化研究を(有)ホシノ天然酵母パン種にて日々行っております。

研究開発活動の成果として、当連結会計年度に新たに取得した特許件数は、国内9件、海外24件の計33件となり、当連結会計年度末日現在の総保有特許は、国内143件、海外445件の合計588件を有するに至っております。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日(平成28年6月29日)現在において当社が判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたり、決算日における資産、負債の報告数値、ならびに報告期間における収益、費用の報告数値は、過去の実績や状況に応じて合理的と考えられる要因などに基づき、見積りおよび判断を行っているものであります。経営者は、これらの見積りについて過去の実績や状況に応じて合理的に判断しておりますが、実際の結果は見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて226百万円減少(前年同期比1.9%減)し、11,420百万円となりました。これは、現金及び預金が113百万円増加、繰延税金資産が184百万円増加、貸倒引当金が478百万円増加したことなどによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて683百万円減少(前年同期比4.5%減)し、14,351百万円となりました。これは、減価償却が進んだことおよび当社の土地を売却したことにより、有形固定資産が502百万円減少、無形固定資産が111百万円増加、投資有価証券が215百万円減少したことなどによります。

この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて910百万円減少(前年同期比3.4%減)し、25,771百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて328百万円減少(前年同期比5.9%減)し、5,247百万円となりました。これは、短期借入金が485百万円減少、未払法人税等が420百万円増加、前受金が259百万円減少したことなどによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて511百万円減少(前年同期比20.4%減)し、1,990百万円となりました。これは、長期借入金が363百万円減少、繰延税金負債が97百万円減少したことなどによります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて839百万円減少(前年同期比10.4%減)し、7,238百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて71百万円減少(前年同期比0.4%減)し、18,533百万円となりました。これは、利益剰余金が1,120百万円増加、自己株式が605百万円増加、その他有価証券評価差額金が143百万円減少、土地再評価差額金が23百万円減少、為替換算調整勘定が360百万円減少したことなどによります。

また、自己資本比率は、前連結会計年度末の69.7%から71.9%となりました。

(3) 経営成績の分析

第2 事業の状況 1 業績等の概要 (1)業績」に記載しております。

(4) キャッシュ・フローの状況の分析

第2 事業の状況 1 業績等の概要 (2)キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

(5) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社は食品加工機械の技術開発型企業として、その市場は日本国内はもとより欧米、アジア等全世界に及んでおります。技術開発型企業を特徴付けるものとして開発投資比率が大きいこと、および売上総利益率が高いことが挙げられます。これを可能ならしめている基本は、開発された技術に基づく商品および製品が、市場ニーズに合った高付加価値を与えるものでなければなりません。食品加工産業は、全体としてまだまだ中小企業が多く生産の合理化、効率化が未達成であり、その上、安全性、衛生面の要求が社会的に強まっております。進歩した「生産機械」、「生産システム」、「生産管理システム」をこれからも市場に提案してまいります。

開発すべき技術は、まだまだ多く、当社の活動範囲は多方面にあります。当社の固定比率の高いところは上記理由からくるものであり、損益分岐点を押し上げる要因となっております。

経営の問題意識といたしましては固定比率を低くすること、また売上高総利益率が高いため、売上を拡大するとともに利益体質強化も推進していき、世界的な食品加工産業のビジネス環境の変化に対応しながら、目標を達成していく所存です。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度に実施しました設備投資の総額は、877百万円となりました。オレンジベーカリーにおいては第3工場の製造用機械装置（生産設備）取得273百万円、第2工場の建物及び附属設備（オフィス改修）取得112百万円などであり、当社においては、建物（社宅寮新築工事）取得131百万円、ソフトウェア（業務支援ソフト）36百万円などであり、

当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成28年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	工具器具 備品	土地 (面積㎡)	リース 資産	合計	
本社・関東営業所 (宇都宮市)	食品加工機械 製造販売事業 (日本)	本社	423,850	65,025	76,837	1,242,542 (19,503)	10,585	1,818,840	236
メンテナンスセンター (宇都宮市)	"	販売設備	13,378	11,403	522	465,577 (5,825)	463	491,343	42
札幌出張所 (札幌市白石区)	"	"	53,159	3,286	87	86,327 (747)	2,060	144,920	6
仙台出張所 (仙台市泉区)	"	"	14,319	3,113	98	3,301 (105)	3,501	24,336	6
東京営業所 (港区)	"	"	181,223	4,645	1,775	409,935 (216)	902	598,482	12
名古屋営業所 (名古屋市名東区)	"	"	81,383	3,798	1,513	128,591 (652)	2,668	217,956	15
大阪営業所 (吹田市)	"	"	81,416	11,668	327	157,897 (424)	3,146	254,456	15
岡山営業所 (岡山市北区)	"	"	1,958	3,469	33	-	2,321	7,782	11
福岡営業所 (福岡市博多区)	"	"	84,441	5,277	435	173,545 (1,656)	2,042	265,742	13
上河内工場 (宇都宮市)	"	生産設備	1,253,112	582,905	41,962	761,066 (91,637)	16,031	2,655,078	317
厚生施設 (宇都宮市)	"	社員食堂	101,935	-	-	226,638 (2,497)	-	328,573	-
社宅 (宇都宮市)	"	社宅	156,183	-	-	453,588 (4,625)	-	609,771	-
駐車場用地 (宇都宮市)	"	土地	-	-	-	109,215 (6,144)	-	109,215	-

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 国内子会社

平成28年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	工具器具 備品	土地 (面積㎡)	リース 資産	合計	
(株)レオンアルミ	本社 (栃木県下野市)	食品加工機械 製造販売事業 (日本)	生産設備	34,171	15,888	1,465	41,651 (2,102)	170	93,347	20
(有)ホシノ天然酵母パン種	本社・町田工場 (東京都町田市)	食品製造 販売事業 (日本)	"	14,131	14,760	567	101,119 (633)	-	130,579	30
	秦野工場 (神奈川県秦野市)	"	"	13,824	8,021	807	47,397 (667)	-	70,050	20

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 在外子会社

平成28年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	工具器具 備品	土地 (面積㎡)	リース 資産	合計	
レオンUSA (RHEON U.S.A.)	本社・東部事務所 (米国カリフォルニア州、ニュー ジャージー州)	食品加工機械 製造販売事業 (北米・南米)	販売設備	267,903	13,260	7,465	191,544 (7,556)	-	480,173	26
レオンヨーロッパ (RHEON AUTOMATIC MACHINERY GmbH)	本社・研究所 (独逸デュッセルドルフ市、ウルム 市)	食品加工機械 製造販売事業 (ヨーロッパ)	"	31,993	4,815	10,916	88,771 (7,515)	-	136,496	40
レオンアジア (亞太雷恩自動機 股份有限公司)	本社 (台湾台北市)	食品加工機械 製造販売事業 (アジア)	"	201	-	2,971	-	-	3,173	8
オレンジ ベーカリー (ORANGE BAKERY, INC.)	本社・4工場 (米国カリフォルニア州、ノースカロ ライナ州)	食品製造 販売事業 (北米・南米)	生産設備	1,693,297	1,618,549	34,989	437,206 (105,455)	-	3,784,042	210

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の 内容	投資予定額 (千円)		資金調達 方法	着手 年月	完了予定 年月	完成後の 増加能力
				総額	既支払額				
(有)ホシノ天然酵母パン種	秦野工場 (神奈川県秦野市)	食品製造 販売事業 (日本)	建物	443,400	-	借入金	平成28年 6月	平成28年 12月	-
			生産設備	94,100	-	"	"	"	生産能力 60%増加

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	42,800,000
計	42,800,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成28年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年6月29日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	28,392,000	28,392,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	28,392,000	28,392,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成23年8月12日	-	28,392	-	7,351,750	600,000	3,360,750
平成25年8月7日	-	28,392	-	7,351,750	500,000	2,860,750

(注) 会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金に振替えたものであります。

(6) 【所有者別状況】

平成28年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)		33	31	124	87	2	3,559	3,836	-
所有株式数(単元)		77,609	4,217	64,637	32,635	4	104,434	283,536	38,400
所有株式数の割合(%)		27.37	1.49	22.80	11.51	0.00	36.83	100.00	-

(注) 自己株式1,617,945株は、「個人その他」に16,179単元、「単元未満株式の状況」に45株含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成28年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
公益財団法人林レオロジー記念財団	栃木県宇都宮市野沢町2-3	3,030	10.68
ラム商事有限会社	栃木県宇都宮市野沢町3-4	1,703	6.00
レオン自動機取引先持株会	栃木県宇都宮市野沢町2-3	1,677	5.91
株式会社足利銀行	栃木県宇都宮市桜4丁目1-25	1,260	4.44
双葉企画有限会社	栃木県宇都宮市野沢町3-7	921	3.25
レオン自動機従業員持株会	栃木県宇都宮市野沢町2-3	904	3.19
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1丁目5-5	786	2.77
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	754	2.66
株式会社栃木銀行	栃木県宇都宮市西2-1-18	680	2.40
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6-6	467	1.65
計		12,188	42.93

(注) 当社は、自己株式1,617,945株(所有株式数の割合5.70%)を保有しておりますが、上記大株主から除いております。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成28年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,617,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 26,735,700	267,357	-
単元未満株式	普通株式 38,400	-	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	28,392,000	-	-
総株主の議決権	-	267,357	-

(注) 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式が45株含まれております。

【自己株式等】

平成28年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) レオン自動機(株)	栃木県宇都宮市野沢町 2番地3	1,617,900	-	1,617,900	5.70
計	-	1,617,900	-	1,617,900	5.70

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、会社法第361条の規定に基づき、当社取締役（社外取締役を除く）に対する株式報酬型ストック・オプションとしての新株予約権に関する報酬等について、平成28年6月23日開催の第54期定時株主総会において決議しております。

当該制度の内容は、次のとおりであります。

決議年月日	平成28年6月23日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役（社外取締役を除く） 5名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	1,000個を各事業年度に係る当社定時株主総会の日から1年以内の日に発行する新株予約権の上限とする。なお、各新株予約権の目的である株式の数は、新株予約権1個当たり100株とする。（注）1
新株予約権の行使時の払込金額	新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、当該新株予約権の行使により交付を受けることができる株式1株当たりの金額を1円とし、これに付与株式数を乗じた金額とする。
新株予約権の行使期間	新株予約権の割当日の翌日から30年以内の範囲で、当社取締役会で定める期間とする。
新株予約権の行使の条件	新株予約権者は、当社の取締役、執行役員及び従業員のいずれの地位をも喪失した日の翌日から10日（10日目が休日にあたる場合には翌営業日）を経過する日までの間に限り、新株予約権を一括してのみ行使できるものとする。なお、その他の新株予約権の行使条件については、新株予約権の募集事項を決定する取締役会において定める。
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注) 1 当社が当社普通株式につき、株式分割（当社普通株式の株式無償割当てを含む。）又は株式併合を行う場合には、新株予約権のうち、当該株式分割又は株式併合の時点で行使されていない新株予約権について、付与株式数を次の計算により調整する。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 分割又は併合の比率

また、上記の他、付与株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、当社は、当社の取締役会において必要と認められる付与株式数の調整を行うことができる。

なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

- 2 新株予約権の1個当たりの払込金額は、新株予約権の割当てに際して算出された新株予約権の公正価額を基準として当社の取締役会で定める額とする。また、新株予約権の割当てを受けた者は、当該払込金額の払込みに代えて、当社に対する報酬債権をもって相殺するものとし、金銭の払込みを要しないものとする。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づく自己株式の取得

区 分	株式数(株)	価額の総額(円)
取締役会(平成28年2月22日)での決議の状況 (取得期間平成28年2月23日~平成28年2月23日)	1,100,000	665,500,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	1,000,000	605,000,000
残存決議株式の総数及び価額の総額	100,000	60,500,000
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	9.1	9.1
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	9.1	9.1

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区 分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	483	281,601
当期間における取得自己株式	74	49,728

(注) 当期間における取得自己株式には、平成28年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	1,617,945	-	1,618,019	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成28年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する配当額の決定を重要な経営課題であるとの認識にもとづき、連結配当性向の目標を30%とし、収益向上に努力し、財務体質の強化を図りつつ、キャッシュ・フローの増大に努め、業績等を総合的に勘案し、継続的かつ安定的な配当を行うことを基本方針としております。なお、内部留保金につきましては、経営基盤の強化を図るため、研究開発および設備投資などへの資金需要に充てる方針であります。また、当社は中間配当を行うことができる旨を定めております。

当社の剰余金の配当は中間配当および期末配当の年2回を基本的な方針としております。配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、継続的な安定配当の基本方針のもと、1株当たり12円00銭とし中間配当金（7円00銭）と合わせて19円00銭としております。

なお、当事業年度の剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成27年11月6日 取締役会決議	194,419	7.00
平成28年6月23日 定時株主総会決議	321,288	12.00

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
決算年月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月	平成27年3月	平成28年3月
最高(円)	215	220	818	606	892
最低(円)	167	169	203	410	467

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における株価を記載しております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成27年10月	11月	12月	平成28年1月	2月	3月
最高(円)	600	838	892	827	767	731
最低(円)	550	613	762	675	545	571

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における株価を記載しております。

5 【役員の状況】

男性9名 女性1名 (役員のうち女性の比率10%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
代表取締役 社長		田代 康憲	昭和22年7月23日生	昭和45年3月 当社入社 昭和61年9月 開発第一部長 昭和62年6月 取締役開発第一部長就任 平成3年6月 取締役開発設計部長就任 平成8年6月 取締役第一開発設計部長就任 平成11年6月 常務取締役第一開発設計担当就任 平成19年6月 常務取締役兼上席執行役員 開発部門 長兼生産部門、営業部門管掌 レオンUSA 取締役就任 平成20年1月 レオンアジア 取締役就任 平成21年4月 常務取締役兼上席執行役員 生産本部 担当兼開発本部、営業本部、技術本部 管掌 平成23年2月 代表取締役社長就任(現)	1	1,097
常務取締役 兼上席執行 役員	営業本部長	片山 芳夫	昭和28年10月12日生	昭和51年4月 当社入社 平成10年11月 社長室企画管理部長兼人事部長 平成12年4月 関東第一営業所長(部長) 平成14年4月 名古屋営業所長(部長) 平成19年4月 執行役員商品設計部長 平成23年4月 執行役員生産統括部長 平成23年6月 取締役兼執行役員就任 平成25年4月 レオンアジア 取締役就任(現) 平成26年4月 オレンジベーカリー 取締役就任 平成27年4月 常務取締役兼上席執行役員就任(現) レオンUSA 取締役就任(現)	1	458
常務取締役 兼上席執行 役員	機械販売 子会社担当	中尾 明功	昭和29年3月15日生	昭和51年4月 当社入社 平成18年4月 海外販売部長 平成19年4月 レオンUSA 執行役社長就任 平成22年4月 執行役員海外販売部長 平成23年4月 執行役員海外販売統括部長 平成23年6月 取締役兼執行役員就任 平成25年4月 レオンUSA 代表取締役会長就任(現) 平成27年4月 常務取締役兼上席執行役員就任(現) レオンアジア 取締役就任(現)	1	456
常務取締役 兼上席執行 役員	生産本部長 兼管理部門 管掌	羽石 是之	昭和28年1月6日生	昭和51年4月 当社入社 平成18年4月 経理部長 平成19年4月 執行役員経理部長 平成23年4月 執行役員管理統括部長兼経理部長 平成23年6月 取締役兼執行役員就任 平成24年3月 レオンUSA 取締役就任(現) オレンジベーカリー 取締役就任(現) 平成27年4月 常務取締役兼上席執行役員就任(現)	1	523
取締役 兼執行役員	食品製造販 売事業担当	小林 幹央	昭和30年2月25日生	昭和52年4月 当社入社 平成14年4月 技術サービス部長 平成19年4月 執行役員技術サービス部長 平成23年10月 オレンジベーカリー代表取締役社長就任 平成26年9月 (有)ホシノ天然酵母パン種代表取締役社長 就任(現) 平成27年6月 取締役兼執行役員就任(現) オレンジベーカリー代表取締役会長就任 (現)	1	39

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (百株)
取締役		根津 正人	昭和22年4月1日生	昭和60年12月 税理士資格取得 平成18年8月 根津正人税理士事務所開所 平成22年6月 当社監査役就任 平成25年6月 当社監査役辞任 当社取締役就任(現)	1	130
取締役		平原 興	昭和48年7月15日生	平成12年4月 弁護士登録 大倉浩法律事務所入所(現) 平成27年6月 当社取締役就任(現)	1	2
監査役	常勤	堀田 昭次	昭和29年11月15日生	昭和53年4月 当社入社 平成17年7月 秘書室長兼内部監査室長 平成22年4月 社長室秘書室長(部長)兼内部監査室長 平成24年6月 常勤監査役就任(現) レオンアジア 監査役就任(現)	3	65
監査役		渡邊 雄一	昭和40年10月13日生	平成3年3月 税理士資格取得 渡邊税理士事務所開所 平成16年11月 当社仮監査役就任 平成17年6月 当社監査役就任(現) 平成19年1月 税理士法人睦月代表就任(現)	2	93
監査役		平林 亮子	昭和50年4月2日生	平成12年4月 公認会計士登録 平林公認会計士事務所設立代表就任(現) 平成18年1月 (有)アール設立取締役就任(現) 平成22年8月 合同会社アールパートナーズ設立代表就任(現) 平成28年6月 当社監査役就任(現)	3	
計						2,863

- (注) 1 取締役根津正人および取締役平原興は、社外取締役であります。
- 2 監査役渡邊雄一および監査役平林亮子は、社外監査役であります。
- 3 取締役、監査役の任期は以下のとおりであります。
- 1 取締役の任期は、平成27年3月期に係る定時株主総会終結のときから、平成29年3月期に係る定時株主総会終結時点であります。
 - 2 監査役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結のときから、平成29年3月期に係る定時株主総会終結時点であります。
 - 3 監査役の任期は、平成28年3月期に係る定時株主総会終結のときから、平成32年3月期に係る定時株主総会終結時点であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

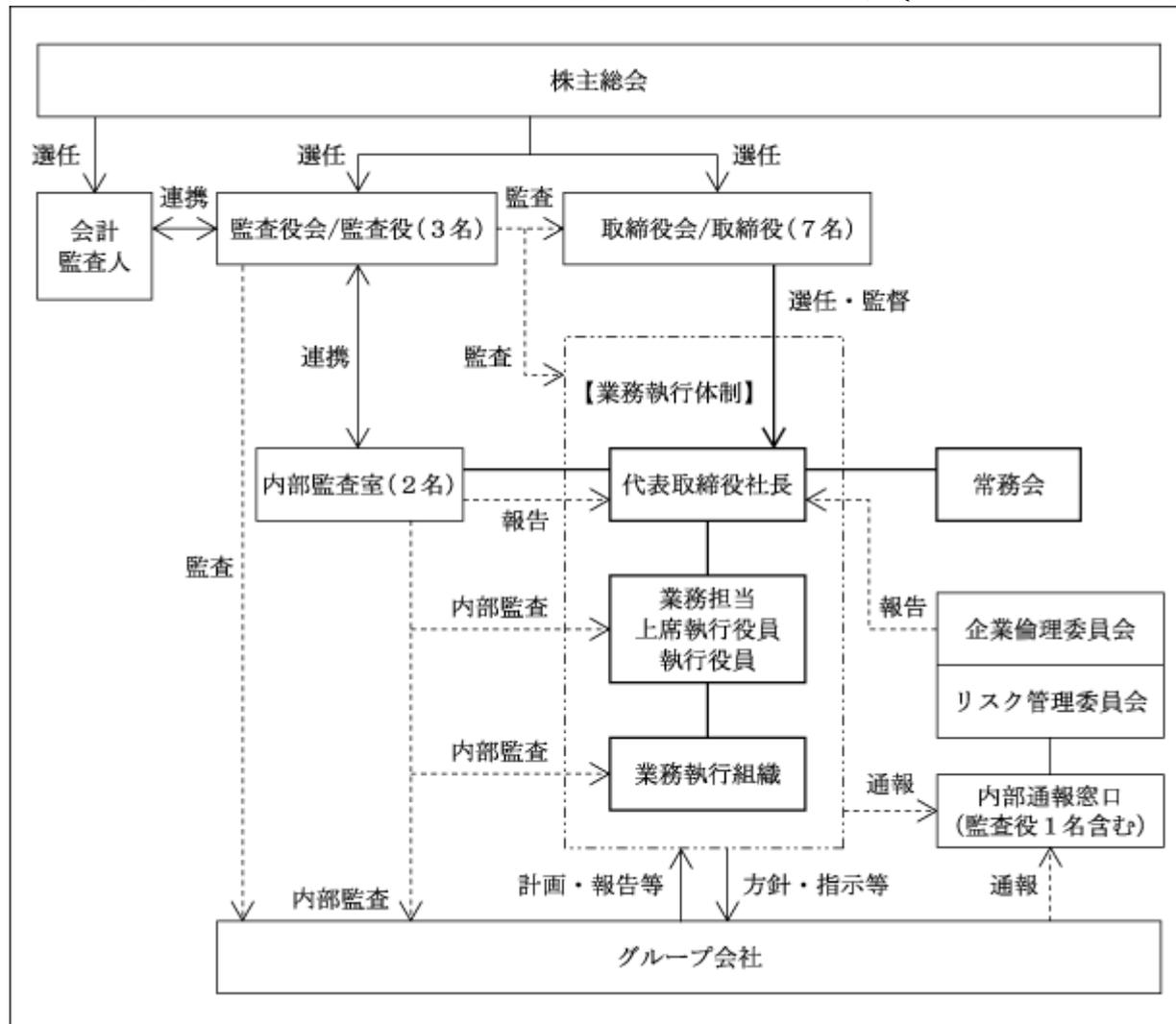
(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、経営環境変化に迅速に対応し得る経営管理体制と公正な経営システムの構築を重要施策と位置付けております。

この基本方針に基づき、当社では取締役会・常務会の活性化と監査役制度の強化を図り、経営の効率性の向上とコンプライアンスを重視した経営に努めております。

コーポレート・ガバナンス体制の模式図は次のとおりであります。（平成28年6月29日現在）



当社は、取締役会と監査役会のガバナンス体制を採用しており、監査役3名のうち2名は社外監査役であり、社外監査役を含めた監査役による、監視体制が経営監視機能として有効であると判断し、監査役設置会社を採用しております。また、コーポレート・ガバナンスを高めるため、当社の取締役7名のうち2名が社外取締役であります。

「取締役会」は、重要事項の決定および業務執行状況の監督を行っております。また、「常務会」を必要に応じて適時開催し、取締役会決議事項以外の重要事項を協議するとともに、取締役会決議事項の事前審議を行っております。

「監査役会」は、監査の方針と分担を定め、監査計画に基づいて連結対象会社を含めて取締役の職務執行を監査しております。

また、平成27年5月1日施行の改正会社法により、平成27年4月1日開催の取締役会において、内部統制システムの整備に関する基本方針を改正し、取締役が法令や定款等を遵守することの徹底を図り、リスク管理体制の強化・充実に努めております。リスク管理体制の基礎として、リスク管理規程および経営危機管理規程を定め、個々のリスクについての管理責任者を決定するなど、同規程でのリスク管理体制の整備に努めております。

さらに、内部統制システムの確立を図るため内部監査室を設けて内部監査を行うとともに、法令等に違反する行為を使用人が発見した場合の報告体制を整備し、管理部門の上席執行役員が委員長を務める企業倫理委員会またはリスク管理委員会が、これらの報告の受け皿となり、必要に応じて内部監査室による内部監査を行う体制となっております。

一方、代表取締役社長と監査役会は、相互の意思疎通を図るため定期的に会合を行い、内部監査規程により内部監査室長は、監査役会との密接な連携を保ち、監査役の監査の実効性を確保しております。

監査役会がその職務を補助する使用人を置くことを求めた場合には、監査役の業務補助のための監査役会スタッフを置くこととし、その人事については、監査役会と十分な意見交換を行い実施いたします。現在、監査役会はその職務を補助すべき使用人を置くことを求めておりませんが、監査役会スタッフが置かれた場合は、取締役からの独立性を確保するため、監査役の指揮命令の下で業務を遂行いたします。監査役会スタッフの人事、評価を行うに際しては、監査役と十分な協議を行います。

取締役の職務の執行に係る情報については、稟議規程、情報処理機器の管理運営規程等により、その保存媒体に応じて安全かつ検索性の高い状態で保存管理しております。また、文書、図面および電磁的記録の保存期間や公示伝達の手順書等のマニュアル化等、情報セキュリティシステム構築の充実に努めております。

また、使用人に対して、法令等の遵守についてあらゆる機会を捉えて日常的に教育実施するとともに、職制別教育研修会のカリキュラムにも取り入れて周知徹底を図っております。一方で、内部通報制度規程を定め、法令等に違反する行為を使用人が発見した場合の報告体制を構築し、通報内容の守秘義務はもちろんのこと通報者に対して不利益にならないような社内通報制度の整備に努めております。当社グループの業務の適正については、関係会社管理規程の報告事項に基づき重要事項に関する報告を義務づけるとともに、倫理コンプライアンス規程、リスク管理規程を策定し、リスク管理者を決定し、リスクの予防を実施しております。そして、各担当役員や内部監査室が定期的に監査を行って業務の適正を確保しております。

会計監査については、有限責任監査法人トーマツを選任しております。監査業務が期末に偏ることのないように期中にも必要に応じて情報を提供し、正確で監査しやすい環境を整備しております。

当社は、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）および監査役ならびに会計監査人との間で、会社法第423条第1項の賠償責任について賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額であります。

内部監査及び監査役監査

当社の内部監査及び監査役監査の組織は、内部監査室2名、常勤監査役1名、社外監査役2名から成っております。常勤監査役は秘書室兼内部監査室の実務を経験し、また社外監査役2名は税理士と公認会計士であり、ともに財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

内部監査室においては、国内外の関係会社を含めた日常業務の適正性および経営の妥当性、効率性を監査しております。

監査役監査については、常勤監査役が中心となり取締役会、経営会議には全て出席し、さらに社内の各種会議にも積極的に参加し、取締役の職務執行を十分監視できる体制となっております。また、業務または業績に重大な影響を与える情報は、担当取締役または責任者より代表取締役社長に報告されると同時に、監査役へ報告する体制としております。

取締役会、経営会議において決議された業務の執行状況は、担当する取締役より取締役会等において報告され、取締役の職務の執行の監督がなされており、監査役会および内部監査室はこれを定期的に監査しております。

取締役の職務の執行については、組織規程の職務分掌に基づくそれぞれの責任者、権限図表に基づく責任の範囲、組織規程運用細則による執行手続等を定めており、効率的な職務の執行を確保しております。

内部監査室と監査役会は、内部監査情報について共有を図り、監査役監査の実効性を高めると共に、業務の執行過程における適正性を確認するため、必要に応じて内部統制部門から情報を入手し、各々独立した監査組織として内部統制システムの確立を推進しております。

会計監査については、有限責任監査法人トーマツを選任しておりますが、重要な関係会社については、会計監査を外部公認会計士事務所に依頼し、公正な会計処理の充実に努めております。当社は、企業経営および日常の業務に関して、必要の都度、顧問弁護士などの複数の専門家から経営判断上の参考となるアドバイスを受ける体制を整えております。

監査役が媒介となり必要に応じて情報交換をすることで、内部監査、監査役監査および会計監査が有機的に連携して監査の効率を高めております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は2名であり、取締役根津正人氏は、当社社外監査役を経て、現在は社外取締役として、経営方針、戦略や役員人事等の決定に際し、独立的、客観的な立場から助言・監督をいただいております。また、取締役平原興氏は、弁護士として豊富な経験と幅広い見識を有しており、当社の経営に対する監督や経営全般に係る助言を受けることにより、コーポレート・ガバナンスの一層の強化を図っていただきます。

社外監査役は2名であり、監査役渡邊雄一氏は税理士として、監査役平林亮子氏は公認会計士として、それぞれ培われた専門的見地と豊富な経験から、監査役会および取締役会において、必要に応じて発言を行うとともに、常勤監査役と連携して、監査役会にて監査方針、監査計画、監査方法、業務分担を審議・決定し、これに基づき年間を通じて監査を実施する役割を担っております。また、平林亮子氏から女性としての視点を通して幅広い助言を受けることにより、女性活躍の推進を図ってまいります。

当社は、社外取締役の根津正人氏・平原興氏、社外監査役の渡邊雄一氏・平林亮子氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。

当社は、社外取締役または社外監査役を選任するための会社からの独立性に関する基準または方針を定めていないものの、東京証券取引所が一般株主と利益相反が生じるおそれのある項目として列挙している「上場管理等に関するガイドライン 5.(3)の2」の事前相談要件等を参考しております。当該、社外取締役および社外監査役による監督または監査と内部監査、監査役監査、会計監査との相互連携ならびに内部統制部門との関係は、必要に応じて報告および情報交換ならびに意見交換を行うなど、意思疎通を図り、監督または監査の実効性の確保に努めております。

役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職 慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	163,680	97,380		66,300		5
監査役 (社外監査役を除く)	10,200	10,200				1
社外役員	13,350	13,350				4

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

当社の役員の報酬等の額の決定については、役員関係内規により定めております。

取締役の報酬限度額は、昭和62年6月25日開催の第25期定時株主総会において月額20,000千円以内と決議されたことに基づき、その限度内において取締役会で決定することとしております。

また、当該報酬限度額とは別枠として、平成28年6月23日開催の第54期定時株主総会において、株式報酬型ストック・オプションとしての新株予約権を年額50,000千円以内の範囲内で取締役(社外取締役を除く)に割り当てることを決議しております。

監査役の報酬限度額は、昭和60年6月27日開催の第23期定時株主総会において月額2,000千円以内と決議されたことに基づき、その限度内において監査役の協議をもって定めることとしております。

株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 20銘柄

貸借対照表計上額の合計額 679,731千円

口 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (千円)	保有目的
(株)足利ホールディングス	500,000	252,500	取引関係の維持強化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	481,360	101,615	取引関係の維持強化のため
(株)栃木銀行	209,120	129,236	取引関係の維持強化のため
理研ビタミン(株)	22,341	92,048	取引及び協力関係の維持強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	99,536	74,024	取引関係の維持強化のため
(株)常陽銀行	85,000	52,530	取引関係の維持強化のため
寿スピリッツ(株)	20,000	50,200	営業上の取引関係の維持強化のため
(株)中村屋	95,532	47,957	営業上の取引関係の維持強化のため
第一生命保険(株)	9,000	15,709	取引関係の維持強化のため
水戸証券(株)	27,951	12,466	取引関係の維持強化のため
ミヨシ油脂(株)	50,000	6,950	取引及び協力関係の維持強化のため
日糧製パン(株)	4,000	756	営業上の取引関係の維持強化のため

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表 計上額 (千円)	保有目的
(株)足利ホールディングス	500,000	161,000	取引関係の維持強化のため
理研ビタミン(株)	22,954	92,164	取引及び協力関係の維持強化のため
(株)栃木銀行	209,120	89,503	取引関係の維持強化のため
(株)みずほフィナンシャルグループ	481,360	80,916	取引関係の維持強化のため
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	99,536	51,908	取引関係の維持強化のため
寿スピリッツ(株)	20,000	50,540	営業上の取引関係の維持強化のため
(株)中村屋	98,173	45,159	営業上の取引関係の維持強化のため
(株)常陽銀行	85,000	32,810	取引関係の維持強化のため
第一生命保険(株)	9,000	12,262	取引関係の維持強化のため
ミヨシ油脂(株)	50,000	6,300	取引及び協力関係の維持強化のため
日糧製パン(株)	4,000	676	営業上の取引関係の維持強化のため
水戸証券(株)	951	296	取引関係の維持強化のため

八 保有目的が純投資目的である投資株式 該当事項はありません。

会計監査の状況

会計監査については、有限責任監査法人トーマツを選任しております。監査業務が期末に偏ることのないように期中にも必要に応じて情報を提供し、正確で監査しやすい環境を整備しております。

業務を執行した公認会計士の氏名、所属する監査法人、当社に係る継続監査年数および監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりです。

業務を執行した公認会計士の氏名	所属する監査法人	継続監査年数 (注)
加藤 博久	有限責任監査法人トーマツ	
鎌田 竜彦	有限責任監査法人トーマツ	

(注) 継続監査年数については、全員7年以内であるため、記載を省略しております。
監査業務に係る補助者の構成は、監査法人の選定基準に基づき決定されております。具体的には、公認会計士6名を主たる構成員とし、システム専門家2名その他の補助者3名も加えて構成されております。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを目的として、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

また、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨、定款に定めております。これは、機動的に自己株式の取得を行うことを目的とするものであります。

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨、定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

取締役を選任する株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の過半数以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、その決議は累積投票によらない旨、定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨、定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区 分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	31,000	-	31,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	31,000	-	31,000	-

【その他重要な報酬の内容】

当社の連結子会社であるレオンヨーロッパ、オレンジベーカリー及びレオンUSAは、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているDeloitte & Touche GmbH、Deloitte & Touche LLP及びDeloitte Tax LLPに対して、以下のとおり報酬を支払っております。

連結子会社名 (支払先)	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬	非監査業務に基づく報酬	監査証明業務に基づく報酬	非監査業務に基づく報酬
レオンヨーロッパ (Deloitte & Touche GmbH) (千ユーロ)	63	74	61	19
オレンジベーカリー (Deloitte & Touche LLP) (千米ドル)	-	21	-	24
オレンジベーカリー (Deloitte Tax LLP) (千米ドル)	-	95	-	102
レオンUSA (Deloitte & Touche LLP) (千米ドル)	-	15	-	15
レオンUSA (Deloitte Tax LLP) (千米ドル)	-	68	-	58

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度及び当連結会計年度において該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

前連結会計年度及び当連結会計年度において該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、会計基準等の内容を適正に把握し、又は会計基準等の変更などについての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、情報収集などの取組みを行っております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,699,960	3,813,125
受取手形及び売掛金	3,397,725	3,198,697
商品及び製品	2,654,176	2,606,975
仕掛品	789,390	801,251
原材料及び貯蔵品	518,661	598,039
繰延税金資産	393,798	578,736
その他	223,328	331,467
貸倒引当金	30,073	508,244
流動資産合計	11,646,969	11,420,049
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	12,705,751	12,754,124
減価償却累計額	8,173,724	8,261,883
建物及び構築物（純額）	4,532,026	4,492,241
機械装置及び運搬具	7,415,719	7,300,154
減価償却累計額	5,032,468	5,165,375
機械装置及び運搬具（純額）	2,383,250	2,134,778
工具、器具及び備品	1,819,515	1,800,949
減価償却累計額	1,636,519	1,619,037
工具、器具及び備品（純額）	182,996	181,912
土地	5,223,558	5,074,602
リース資産	137,491	116,899
減価償却累計額	91,977	73,004
リース資産（純額）	45,514	43,894
建設仮勘定	91,857	29,396
有形固定資産合計	12,459,203	11,956,825
無形固定資産		
投資その他の資産	172,625	283,762
投資有価証券	913,843	698,487
退職給付に係る資産	1,391,116	1,237,418
その他	124,617	182,950
貸倒引当金	25,867	7,736
投資その他の資産合計	2,403,708	2,111,119
固定資産合計	15,035,537	14,351,708
資産合計	26,682,507	25,771,757

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	751,006	941,493
短期借入金	1,583,527	1,097,798
リース債務	20,257	19,073
未払費用	436,383	402,409
未払法人税等	226,532	647,420
前受金	965,963	705,988
賞与引当金	673,583	724,228
役員賞与引当金	53,200	66,300
その他	865,560	643,074
流動負債合計	5,576,015	5,247,786
固定負債		
長期借入金	1,193,738	830,648
リース債務	28,294	28,845
繰延税金負債	621,495	524,302
再評価に係る繰延税金負債	519,007	468,958
訴訟損失引当金	73,278	73,278
資産除去債務	16,326	16,446
その他	49,818	48,457
固定負債合計	2,501,958	1,990,936
負債合計	8,077,973	7,238,722
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,351,750	7,351,750
資本剰余金	7,060,750	7,060,750
利益剰余金	9,647,635	10,768,033
自己株式	177,312	782,593
株主資本合計	23,882,823	24,397,939
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	194,510	50,723
土地再評価差額金	5,345,797	5,369,745
為替換算調整勘定	46,658	407,448
退職給付に係る調整累計額	80,343	138,434
その他の包括利益累計額合計	5,278,289	5,864,904
純資産合計	18,604,533	18,533,034
負債純資産合計	26,682,507	25,771,757

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)
売上高	23,023,999	25,100,383
売上原価	3 12,775,905	3 13,684,332
売上総利益	10,248,094	11,416,050
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	229,615	231,809
荷造運搬費	586,871	687,117
貸倒引当金繰入額	1,038	525,987
販売手数料	395,011	472,812
給料及び手当	2,898,132	3,002,474
賞与引当金繰入額	373,278	408,047
役員賞与引当金繰入額	53,200	66,300
退職給付費用	295,518	256,006
旅費及び交通費	449,979	465,547
減価償却費	251,753	270,962
研究開発費	1 673,684	1 723,499
その他	1,837,414	1,934,739
販売費及び一般管理費合計	8,045,499	9,045,305
営業利益	2,202,595	2,370,745
営業外収益		
受取利息	3,290	3,307
受取配当金	15,830	17,710
物品売却益	17,534	12,314
為替差益	-	6,596
補助金収入	16,784	-
電力販売収益	27,636	26,281
その他	117,156	148,256
営業外収益合計	198,232	214,467
営業外費用		
支払利息	43,137	33,413
為替差損	2,396	-
電力販売費用	20,550	19,650
その他	13,222	11,779
営業外費用合計	79,306	64,842
経常利益	2,321,521	2,520,370
特別損失		
減損損失	2 67,522	-
特別損失合計	67,522	-
税金等調整前当期純利益	2,253,998	2,520,370
法人税、住民税及び事業税	590,149	1,026,322
法人税等調整額	209,008	216,580
法人税等合計	381,141	809,741
当期純利益	1,872,857	1,710,628
親会社株主に帰属する当期純利益	1,872,857	1,710,628

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
当期純利益	1,872,857	1,710,628
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	106,533	143,787
土地再評価差額金	53,584	24,633
為替換算調整勘定	572,658	360,789
退職給付に係る調整額	399,997	58,090
その他の包括利益合計	1,132,774	538,033
包括利益	3,005,631	1,172,594
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,005,631	1,172,594

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	7,351,750	7,060,750	7,468,030	174,535	21,705,995
会計方針の変更による 累積的影響額			488,040		488,040
会計方針の変更を反映し た当期首残高	7,351,750	7,060,750	7,956,070	174,535	22,194,035
当期変動額					
剰余金の配当			222,233		222,233
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,872,857		1,872,857
自己株式の取得				2,777	2,777
土地再評価差額金の取 崩			40,941		40,941
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	1,691,565	2,777	1,688,788
当期末残高	7,351,750	7,060,750	9,647,635	177,312	23,882,823

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評 価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調 整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	87,977	5,358,441	619,317	480,341	6,370,123	15,335,872
会計方針の変更による 累積的影響額						488,040
会計方針の変更を反映し た当期首残高	87,977	5,358,441	619,317	480,341	6,370,123	15,823,912
当期変動額						
剰余金の配当						222,233
親会社株主に帰属する 当期純利益						1,872,857
自己株式の取得						2,777
土地再評価差額金の取 崩		40,941			40,941	-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	106,533	53,584	572,658	399,997	1,132,774	1,132,774
当期変動額合計	106,533	12,643	572,658	399,997	1,091,833	2,780,621
当期末残高	194,510	5,345,797	46,658	80,343	5,278,289	18,604,533

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	7,351,750	7,060,750	9,647,635	177,312	23,882,823
会計方針の変更による 累積的影響額					-
会計方針の変更を反映し た当期首残高	7,351,750	7,060,750	9,647,635	177,312	23,882,823
当期変動額					
剰余金の配当			638,811		638,811
親会社株主に帰属する 当期純利益			1,710,628		1,710,628
自己株式の取得				605,281	605,281
土地再評価差額金の取 崩			48,580		48,580
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	1,120,397	605,281	515,116
当期末残高	7,351,750	7,060,750	10,768,033	782,593	24,397,939

	その他の包括利益累計額					純資産合計
	その他有価証券評 価差額金	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調 整累計額	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	194,510	5,345,797	46,658	80,343	5,278,289	18,604,533
会計方針の変更による 累積的影響額						-
会計方針の変更を反映し た当期首残高	194,510	5,345,797	46,658	80,343	5,278,289	18,604,533
当期変動額						
剰余金の配当						638,811
親会社株主に帰属する 当期純利益						1,710,628
自己株式の取得						605,281
土地再評価差額金の取 崩		48,580			48,580	-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	143,787	24,633	360,789	58,090	538,033	538,033
当期変動額合計	143,787	23,947	360,789	58,090	586,614	71,498
当期末残高	50,723	5,369,745	407,448	138,434	5,864,904	18,533,034

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,253,998	2,520,370
減価償却費	795,984	889,713
減損損失	67,522	1,118
貸倒引当金の増減額(は減少)	10,022	493,152
賞与引当金の増減額(は減少)	7,509	53,351
役員賞与引当金の増減額(は減少)	2,900	13,100
受取利息及び受取配当金	19,120	21,017
支払利息	43,137	33,413
有形固定資産除却損	4,378	2,878
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	109,460	73,399
売上債権の増減額(は増加)	142,494	104,048
たな卸資産の増減額(は増加)	349,866	154,170
その他の流動資産の増減額(は増加)	14,579	42,228
その他の固定資産の増減額(は増加)	2,076	890
未払費用の増減額(は減少)	14,587	29,119
仕入債務の増減額(は減少)	77,094	243,307
未収消費税等の増減額(は増加)	30,026	64,392
未払消費税等の増減額(は減少)	110,251	62,109
その他の流動負債の増減額(は減少)	338,742	117,851
その他の固定負債の増減額(は減少)	47,220	1,361
その他	16,681	10,339
小計	3,224,355	3,945,051
利息及び配当金の受取額	19,263	21,053
利息の支払額	43,829	34,331
退職金制度移行に伴う支払額	187,354	-
法人税等の支払額	418,039	732,181
法人税等の還付額	726	660
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,595,121	3,200,253

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	818,421	896,348
有形固定資産の売却による収入	24,518	138,708
無形固定資産の取得による支出	15,072	137,081
投資有価証券の取得による支出	3,686	3,708
貸付けによる支出	707	1,026
貸付金の回収による収入	1,257	2,693
その他	1,059	58,642
投資活動によるキャッシュ・フロー	813,173	955,405
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	519,187	398,181
長期借入れによる収入	-	250,000
長期借入金の返済による支出	777,154	654,032
リース債務の返済による支出	27,374	21,941
自己株式の取得による支出	2,777	605,281
配当金の支払額	221,991	638,102
財務活動によるキャッシュ・フロー	510,110	2,067,538
現金及び現金同等物に係る換算差額	14,756	64,144
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,257,081	113,164
現金及び現金同等物の期首残高	2,442,878	3,699,960
現金及び現金同等物の期末残高	3,699,960	3,813,125

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 6社

連結子会社の名称

RHEON AUTOMATIC MACHINERY GmbH、RHEON U.S.A.、
亞太雷恩自動機股分有限公司、ORANGE BAKERY, INC.、
(有)ホシノ天然酵母パン種、(株)レオンアルミ

2 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度末日と連結決算日は一致しております。

3 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法を採用しております。

たな卸資産

a 商品、製品、仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

b 原材料

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

c 貯蔵品

最終仕入原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

なお、在外連結子会社の商品については、個別法による低価法を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

当社および国内連結子会社は主として定率法を採用し、在外連結子会社は主として定額法を採用しております。

ただし、当社および国内連結子会社は平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 7～65年

機械装置及び運搬具 3～17年

工具、器具及び備品 2～15年

無形固定資産(リース資産を除く)

当社および連結子会社は定額法を採用しております。

ただし、ソフトウエア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

当社および国内連結子会社は、売掛債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

在外連結子会社については、個別債権の実情と即応した引当額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

役員賞与引当金

当社は、役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、当連結会計年度における支給見込額に基づき、当連結会計年度に見合う分を計上しております。

訴訟損失引当金

当社は、訴訟に対する損失に備えるため、将来発生する可能性のある損失を見積り必要額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異及び過去勤務費用は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用については、税効果を調整の上、純資産の部におけるその他の包括利益累計額の「退職給付に係る調整累計額」に計上しております。

なお、当連結会計年度末においては、年金資産が退職給付債務を超過しているため、当該超過額を投資その他の資産の「退職給付に係る資産」に計上しております。

また、退職給付信託を設定しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外連結子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めて計上しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。

なお、為替予約について振当処理の要件を満たしている場合は振当処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約

ヘッジ対象...外貨建債権

ヘッジ方針

外貨建取引のうち当社に為替変動リスクが帰属する場合は、そのリスクヘッジのため実需原則に基づき為替予約取引を行うものとしております。

ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計又は相場変動とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計又は相場変動を半期ごとに比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジ有効性を評価しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3カ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。)、 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。)等を当連結会計年度から適用し、当期純利益等の表示の変更を行っております。

当該表示の変更を反映させるため、前連結会計年度については連結財務諸表の組替えを行っております。

(連結貸借対照表関係)

土地の再評価

当社は、「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを減算した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

・再評価の方法

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税評価額に合理的な調整を行って算定する方法によって算出しております。

・再評価を行った年月日

平成14年3月31日

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と 再評価後の帳簿価額との差額	1,312,817千円	1,361,466千円

(連結損益計算書関係)

1 一般管理費および当期製造費用に含まれる研究開発費の総額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
一般管理費	673,684千円	723,499千円

2 減損損失

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

場所	主な用途	種類	減損損失 (千円)
栃木県 宇都宮市	賃貸資産	土地	63,346
その他	社宅寮、その他附属設備その他	建物及び構築物等	4,175
合計			67,522

当社が使用している固定資産は、開発から販売まで全ての資産が一体となってキャッシュ・フローを生成していることから全体を一つのグループとしています。

また、連結子会社は、主として各社を1つの単位としてグルーピングしております。

当社グループは土地および老朽化した建物、機械装置、工具器具備品等を今後の利用計画がないことから帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。なお、土地の回収可能価額は、売却見込額を基に算出した正味売却価額としております。

また、建物及び構築物等においては、回収可能価額を零としております。

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

該当事項はありません。

3 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下げ額は次のとおりであります。

前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
132,118千円	144,639千円

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	150,172千円	207,320千円
組替調整額	- 千円	6,036千円
税効果調整前	150,172千円	213,356千円
税効果額	43,639千円	69,569千円
その他有価証券評価差額金	106,533千円	143,787千円
土地再評価差額金		
税効果額	53,584千円	24,633千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	572,658千円	360,789千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	253,891千円	164,423千円
組替調整額	107,239千円	84,125千円
税効果調整前	361,130千円	80,298千円
税効果額	38,866千円	22,207千円
退職給付に係る調整額	399,997千円	58,090千円
その他の包括利益合計	1,132,774千円	538,033千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首(株)	増加(株)	減少(株)	当連結会計年度末(株)
普通株式	28,392,000	-	-	28,392,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首(株)	増加(株)	減少(株)	当連結会計年度末(株)
普通株式	612,028	5,434	-	617,462

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取による増加 5,434株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	111,119	4.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日
平成26年11月7日 取締役会	普通株式	111,113	4.00	平成26年9月30日	平成26年12月15日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	444,392	16.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日

当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首(株)	増加(株)	減少(株)	当連結会計年度末(株)
普通株式	28,392,000	-	-	28,392,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首(株)	増加(株)	減少(株)	当連結会計年度末(株)
普通株式	617,462	1,000,483	-	1,617,945

(変動事由の概要)

増加数の主な内訳は、次のとおりであります。

平成28年2月22日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得 1,000,000株

単元未満株式の買取による増加 483株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	444,392	16.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日
平成27年11月6日 取締役会	普通株式	194,419	7.00	平成27年9月30日	平成27年12月14日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	321,288	12.00	平成28年3月31日	平成28年6月24日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前連結会計年度	当連結会計年度
	(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
現金及び預金勘定	3,699,960千円	3,813,125千円
現金及び現金同等物	3,699,960千円	3,813,125千円

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

1 リース資産の内容

有形固定資産

主として、本社及び営業所における車両（機械装置及び運搬具）及び本社における複合機（工具、器具及び備品）であります。

2 リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については、短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。デリバティブは、後述するリスクを回避するために利用し、投機的な取引は行っておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

受取手形及び売掛金に係る顧客の信用リスクは、得意先与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。借入金の用途は運転資金（主として短期）および設備投資資金（長期）であります。デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引であります。また、デリバティブ取引の利用にあたっては、格付けの高い金融機関とのみ取引を行っております。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジの方針、ヘッジの有効性評価の方法などについては、前述の「会計処理基準に関する事項」の「重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。また、営業債務や借入金は、流動性リスクにさらされていますが、当社グループでは、月次に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件などを採用することにより、当該価額が変動することがあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額などについては、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（(注)2参照）。

前連結会計年度（平成27年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	3,699,960	3,699,960	-
(2) 受取手形及び売掛金	3,397,725	3,397,725	-
(3) 投資有価証券 其他有価証券	835,993	835,993	-
資産計	7,933,680	7,933,680	-
(4) 支払手形及び買掛金	751,006	751,006	-
(5) 短期借入金	1,583,527	1,583,527	-
(6) 未払法人税等	226,532	226,532	-
(7) 長期借入金	1,193,738	1,197,338	3,600
負債計	3,754,804	3,758,405	3,600
デリバティブ取引(*)	5,956	5,956	-

(*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

当連結会計年度（平成28年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	3,813,125	3,813,125	-
(2) 受取手形及び売掛金	3,198,697	3,198,697	-
(3) 投資有価証券 其他有価証券	623,536	623,536	-
資産計	7,635,359	7,635,359	-
(4) 支払手形及び買掛金	941,493	941,493	-
(5) 短期借入金	1,097,798	1,097,798	-
(6) 未払法人税等	647,420	647,420	-
(7) 長期借入金	830,648	837,269	6,621
負債計	3,517,360	3,523,981	6,621
デリバティブ取引(*)	1,469	1,469	-

(*) デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

(注) 1 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

負債

(4) 支払手形及び買掛金、(5) 短期借入金、並びに(6) 未払法人税等

これらはすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(7) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算出する方法によっております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記をご参照ください。

(注) 2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
非上場株式	77,849	74,950

これらの時価については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

(注) 3 金銭債権及び満期がある有価証券の連結決算日後の償還予定額
前連結会計年度(平成27年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,699,960	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,397,725	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの	-	-	-	-
長期貸付金(*)	-	-	-	-
合計	7,097,686	-	-	-

(*) 長期貸付金1,636千円については、返済期限を設けていないため上記表に含めておりません。

当連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,813,125	-	-	-
受取手形及び売掛金	3,198,697	-	-	-
投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの	-	-	-	-
長期貸付金(*)	-	-	-	-
合計	7,011,822	-	-	-

(*) 長期貸付金2,433千円については、返済期限を設けていないため上記表に含めておりません。

(注) 4 長期借入金、リース債務及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(平成27年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	954,441	-	-	-	-	-
長期借入金	629,086	511,126	366,306	316,306	-	-
リース債務	20,257	15,455	9,300	3,346	191	-
合計	1,603,785	526,581	375,606	319,652	191	-

当連結会計年度(平成28年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	550,154	-	-	-	-	-
長期借入金	547,644	402,824	352,824	50,000	25,000	-
リース債務	19,073	13,224	7,646	4,504	3,469	-
合計	1,116,871	416,048	360,470	54,504	28,469	-

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(平成27年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	835,993	549,695	286,297
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	835,993	549,695	286,297
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式	-	-	-
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	-	-	-
合計		835,993	549,695	286,297

(注)当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について減損処理を行っておりません。なお、当該有価証券の減損処理にあたっては、時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合は、時価の回復可能性がないものとして一律に減損処理を実施し、下落率が30%以上50%未満の場合には、時価の回復可能性の判定を行い、減損処理の要否を決定しております。

当連結会計年度(平成28年3月31日)

	種類	連結貸借対照表 計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1)株式	417,464	269,439	148,025
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	417,464	269,439	148,025
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1)株式	206,072	281,156	75,084
	(2)債券	-	-	-
	(3)その他	-	-	-
	小計	206,072	281,156	75,084
合計		623,536	550,596	72,940

(注)当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について減損処理を行っておりません。なお、当該有価証券の減損処理にあたっては、時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合は、時価の回復可能性がないものとして一律に減損処理を実施し、下落率が30%以上50%未満の場合には、時価の回復可能性の判定を行い、減損処理の要否を決定しております。

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(通貨関連)

前連結会計年度(平成27年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (千円)	うち1年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	76,438	-	193	193
	ユーロ	153,379	-	5,763	5,763
合計		229,817	-	5,956	5,956

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成28年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (千円)	うち1年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引以外の取引	為替予約取引				
	売建				
	米ドル	312,874	-	3,062	3,062
	ユーロ	147,358	-	1,593	1,593
合計		460,232	-	1,469	1,469

(注) 時価の算定方法 取引先金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として、厚生年金基金制度および平成20年9月30日まで適格退職年金制度を設けておりましたが、平成20年10月1日より適格退職年金制度から確定給付企業年金制度および確定拠出企業型年金制度に移行しております。厚生年金基金は、全日本食品機械工業厚生年金基金（総合設立型）に加入しております。当該厚生年金基金制度は自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度であるため、確定拠出制度と同様に処理しております。

なお、当社は退職給付信託を設定しております。

2 確定給付制度（簡便法を適用した制度を除く。）

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
退職給付債務の期首残高	2,964,585千円	2,339,277千円
会計方針の変更による累積的影響額	755,129千円	- 千円
会計方針の変更を反映した期首残高	2,209,455千円	2,339,277千円
勤務費用	164,923千円	173,077千円
利息費用	22,978千円	14,035千円
数理計算上の差異の発生額	115,197千円	58,946千円
退職給付の支払額	173,277千円	197,907千円
退職給付債務の期末残高	2,339,277千円	2,387,430千円

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
年金資産の期首残高	3,161,546千円	3,730,393千円
期待運用収益	63,230千円	74,607千円
数理計算上の差異の発生額	369,088千円	105,476千円
事業主からの拠出額	309,804千円	123,231千円
退職給付の支払額	173,277千円	197,907千円
年金資産の期末残高	3,730,393千円	3,624,848千円

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	2,339,277千円	2,387,430千円
年金資産	3,730,393千円	3,624,848千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,391,116千円	1,237,418千円
退職給付に係る資産	1,391,116千円	1,237,418千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,391,116千円	1,237,418千円

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
勤務費用	164,923千円	173,077千円
利息費用	22,978千円	14,035千円
期待運用収益	63,230千円	74,607千円
数理計算上の差異の費用処理額	55,211千円	32,097千円
過去勤務費用の費用処理額	52,028千円	52,028千円
その他	2,622千円	1,012千円
確定給付制度に係る退職給付費用	234,532千円	197,643千円

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
過去勤務費用	52,028千円	52,028千円
数理計算上の差異	309,102千円	132,326千円
合計	361,130千円	80,298千円

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
未認識過去勤務費用	169,092千円	117,063千円
未認識数理計算上の差異	49,881千円	82,445千円
合計	119,210千円	199,508千円

(7) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

	前連結 会計年 度 (自 平 成26年 4月1 日 至 平成27 年3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
債券	43%	25%
株式	40%	32%
現金及び預金	1%	1%
一般勘定	10%	9%
その他	6%	33%
合計	100%	100%

(注) 年金資産合計には、企業年金制度に対して設定した退職給付信託が前連結会計年度13%、当連結会計年度13%含まれております。また、当連結会計年度のその他には、主として短期資金が含まれております。

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表しております。）

	前連結 会計年 度 (自 平 成26年 4月1 日 至 平成27 年3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
割引率	0.6%	0.2%
長期期待運用収益率	2.0%	2.0%
予想昇給率	2.9%	2.9%

3 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度139,482千円、当連結会計年度140,709千円であります。

4 要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項

確定拠出制度と同様に会計処理をする、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、前連結会計年度147,406千円、当連結会計年度112,976千円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
年金資産の額	24,086,976千円	27,175,437千円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	22,404,572千円	24,665,654千円
差引額	1,682,404千円	2,509,783千円

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度 15.2% (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)

当連結会計年度 15.4% (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高（前連結会計年度1,105,338千円、当連結会計年度971,991千円）、繰越剰余金（前連結会計年度1,418,960千円、当連結会計年度694,031千円）及び別途積立金（前連結会計年度1,368,782千円、当連結会計年度2,787,742千円）であります。

なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しておりません。

(ストックオプション等関係)

前連結会計年度(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)及び当連結会計年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)において該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
繰延税金資産		
たな卸資産	127,494千円	136,699千円
賞与引当金	207,644千円	209,057千円
役員賞与引当金	17,465千円	20,347千円
固定資産	106,711千円	100,374千円
試験研究費	98,252千円	104,492千円
投資有価証券	1,593千円	1,513千円
貸倒引当金	6,551千円	187,183千円
未払費用	47,176千円	35,263千円
退職給付に係る負債	144,718千円	145,514千円
資産除去債務	4,576千円	4,207千円
未払金	14,819千円	3,263千円
長期未払金	14,590千円	13,912千円
未実現利益	183,823千円	251,006千円
退職給付に係る資産	38,866千円	61,074千円
その他	634,878千円	591,689千円
繰延税金資産小計	1,649,162千円	1,865,599千円
評価性引当額	1,013,201千円	996,147千円
繰延税金資産合計	635,960千円	869,452千円
繰延税金負債		
子会社留保利益金	125,319千円	140,886千円
減価償却費	158,723千円	211,453千円
退職給付に係る資産	484,210千円	437,688千円
その他有価証券評価差額金	91,787千円	22,217千円
その他	653千円	2,229千円
繰延税金負債合計	860,694千円	814,475千円
繰延税金資産(負債)の純額	224,734千円	54,976千円
再評価に係る繰延税金負債		
土地再評価差額金	519,007千円	468,958千円

(注) 前連結会計年度および当連結会計年度における繰延税金資産(負債)の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	393,798千円	578,736千円
固定資産 - 繰延税金資産	2,962千円	543千円
固定負債 - 繰延税金負債	621,495千円	524,302千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当連結会計年度 (平成28年3月31日)
法定実効税率	35.4%	32.8%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.3%	0.4%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1%	0.5%
住民税均等割	0.6%	0.5%
評価性引当額	14.5%	1.5%
連結修正による影響	4.7%	0.9%
在外子会社税率差異	0.8%	0.4%
在外子会社の留保利益	0.8%	0.6%
役員賞与引当金	0.8%	0.7%
税額控除	3.3%	3.9%
その他	0.8%	0.5%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	16.9%	32.1%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」が平成28年3月29日に国会で成立したことに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成28年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、主に前連結会計年度の32.8%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成28年4月1日から平成30年3月31日までのものは30.7%、平成30年4月1日以降のものについては30.5%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)は、6,945千円減少し、法人税等調整額が8,666千円減少し、その他有価証券評価差額金が1,167千円増加、退職給付に係る調整累計額が2,887千円増加しております。

また、再評価に係る繰延税金負債は24,633千円減少し、土地再評価差額金が同額増加しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、主に食品加工機械を開発・製造・販売する食品加工機械製造販売事業とパン・菓子、天然酵母パン種の開発・製造・販売を行う食品製造販売事業を行っております。

食品加工機械製造販売事業では、当社(日本、アジア(台湾、香港、フィリピンを除く))、RHEON U.S.A.(北米・南米)、RHEON AUTOMATIC MACHINERY GmbH(ヨーロッパ)、亞太雷恩自動機股分有限公司(台湾、香港、フィリピン)が、各地域をそれぞれ担当しており、販売体制を基礎とした地域別の管理を行っております。また、(株)レオンアルミ(日本)は、アルミ鋳物部品の製造・販売を行っております。

食品製造販売事業では、ORANGE BAKERY, INC.(北米・南米)(パン・菓子の製造・販売)、(有)ホシノ天然酵母パン種(日本)(天然酵母パン種の開発・製造・販売)をそれぞれ行っており、事業別および地域別の管理を行っております。

したがって当社は、食品加工機械製造販売事業では、「日本」「北米・南米」「ヨーロッパ」「アジア」、食品製造販売事業では、「北米・南米」「日本」を報告セグメントとしております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。セグメント間の内部売上高および振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成26年4月1日至平成27年3月31日)

(単位:千円)

	食品加工機械製造販売事業				
	日本	北米・南米	ヨーロッパ	アジア	小計
売上高					
外部顧客への売上高	9,154,077	1,828,481	2,600,973	1,869,238	15,452,771
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,618,799	19,956	455	720	3,639,931
計	12,772,877	1,848,437	2,601,428	1,869,959	19,092,702
セグメント利益	2,281,920	46,548	71,131	540,716	2,940,316
セグメント資産	18,238,857	1,618,678	2,329,139	475,120	22,661,795
セグメント負債	5,430,956	339,838	733,642	294,816	6,799,253
その他の項目					
減価償却費	334,102	13,958	14,373	1,046	363,480
支払利息	17,967	-	-	-	17,967
特別損失	67,522	-	-	-	67,522
(減損損失)	(67,522)	(-)	(-)	(-)	(67,522)
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	234,349	10,239	7,836	-	252,424

	食品製造販売事業			合計
	北米・南米	日本	小計	
売上高				
外部顧客への売上高	7,123,652	447,576	7,571,228	23,023,999
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	92	92	3,640,023
計	7,123,652	447,668	7,571,320	26,664,023
セグメント利益	750,351	50,073	800,425	3,740,741
セグメント資産	5,640,919	471,734	6,112,654	28,774,450
セグメント負債	1,929,153	46,946	1,976,100	8,775,354
その他の項目				
減価償却費	315,510	10,600	326,111	689,592
支払利息	26,141	-	26,141	44,108
特別損失	-	-	-	67,522
(減損損失)	(-)	(-)	(-)	(67,522)
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	1,159,543	970	1,160,513	1,412,937

(注) 各区分に属する主な国又は地域

- (1) 北米・南米.....アメリカ合衆国、メキシコ、カナダ
- (2) ヨーロッパ.....ドイツ、トルコ、スペイン、フランス、ギリシャ
- (3) アジア.....中国、台湾、韓国、オーストラリア、タイ

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：千円）

	食品加工機械製造販売事業				
	日本	北米・南米	ヨーロッパ	アジア	小計
売上高					
外部顧客への売上高	9,267,301	2,036,134	2,844,386	2,234,932	16,382,755
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,876,096	51,399	-	-	3,927,496
計	13,143,398	2,087,534	2,844,386	2,234,932	20,310,251
セグメント利益	2,485,703	84,420	103,262	729,062	3,402,448
セグメント資産	17,498,283	1,742,362	2,203,365	336,614	21,780,626
セグメント負債	4,947,290	544,340	864,476	164,821	6,520,928
その他の項目					
減価償却費	308,984	15,382	10,639	715	335,720
支払利息	12,436	-	-	-	12,436
特別損失	-	-	-	-	-
(減損損失)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	124,583	7,368	4,651	300	136,903

	食品製造販売事業			合計
	北米・南米	日本	小計	
売上高				
外部顧客への売上高	8,224,360	493,267	8,717,628	25,100,383
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	46	46	3,927,543
計	8,224,360	493,314	8,717,674	29,027,926
セグメント利益	455,721	118,582	574,304	3,976,752
セグメント資産	5,301,333	621,084	5,922,418	27,703,045
セグメント負債	1,470,289	73,640	1,543,929	8,064,858
その他の項目				
減価償却費	422,156	11,156	433,312	769,033
支払利息	21,859	-	21,859	34,296
特別損失	-	-	-	-
(減損損失)	(-)	(-)	(-)	(-)
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	420,800	15,820	436,620	573,524

(注) 各区分に属する主な国又は地域

- (1) 北米・南米.....アメリカ合衆国、メキシコ、カナダ
- (2) ヨーロッパ.....ドイツ、スペイン、イスラエル、フランス、イタリア
- (3) アジア.....中国、韓国、台湾、香港、シンガポール

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	26,664,023	29,027,926
セグメント間取引消去	3,640,023	3,927,543
連結財務諸表の売上高	23,023,999	25,100,383

（単位：千円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	3,740,741	3,976,752
セグメント間取引消去	117,783	82,257
本社一般管理費（注）	1,420,363	1,523,749
連結財務諸表の営業利益	2,202,595	2,370,745

（注）本社一般管理費は、当社の管理部門に係る費用であります。

（単位：千円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	28,774,450	27,703,045
セグメント間取引消去	5,027,199	4,895,560
全社資産（注）	2,935,256	2,964,273
連結財務諸表の資産合計	26,682,507	25,771,757

（注）全社資産は、当社の管理部門に係る資産であります。

（単位：千円）

負債	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	8,775,354	8,064,858
セグメント間取引消去	697,380	826,135
連結財務諸表の負債合計	8,077,973	7,238,722

（単位：千円）

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	689,592	769,033	106,392	120,679	795,984	889,713
支払利息	44,108	34,296	971	882	43,137	33,413
特別損失	67,522	-	-	-	67,522	-
（減損損失）	(67,522)	(-)	(-)	(-)	(67,522)	(-)
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	1,412,937	573,524	193,808	304,174	1,606,746	877,698

（注）有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、当社の管理部門に係る設備投資額であります。

【関連情報】

前連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	食品加工機械製造販売事業	食品製造販売事業	合計
外部顧客への売上高	15,452,771	7,571,228	23,023,999

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：千円）

日本	北米・南米	ヨーロッパ	アジア・オセアニア	合計
9,601,654	8,952,133	2,600,973	1,869,238	23,023,999

(2) 有形固定資産

（単位：千円）

日本	北米・南米	ヨーロッパ	アジア・オセアニア	合計
8,003,631	4,307,460	144,290	3,820	12,459,203

3 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Bake One, Inc.	3,087,331	食品製造販売事業（北米・南米）

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1 製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	食品加工機械製造販売事業	食品製造販売事業	合計
外部顧客への売上高	16,382,755	8,717,628	25,100,383

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

（単位：千円）

日本	北米・南米	ヨーロッパ	アジア・オセアニア	合計
9,760,569	10,260,495	2,844,386	2,234,932	25,100,383

(2) 有形固定資産

（単位：千円）

日本	北米・南米	ヨーロッパ	アジア・オセアニア	合計
7,803,379	4,013,775	136,496	3,173	11,956,825

3 主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
Bake One, Inc.	3,252,035	食品製造販売事業（北米・南米）

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

（単位：千円）

	食品加工機械製造販売事業				
	日本	北米・南米	ヨーロッパ	アジア	小計
減損損失	67,522	-	-	-	67,522

	食品製造販売事業			合計	調整額	連結財務諸表 計上額
	北米・南米	日本	小計			
減損損失	-	-	-	67,522	-	67,522

当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）及び当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）において、該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）及び当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）において、該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）及び当連結会計年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）において、取引金額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)
1株当たり純資産額	669円84銭	692円20銭
1株当たり当期純利益金額	67円42銭	61円93銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,872,857	1,710,628
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益(千円)	1,872,857	1,710,628
普通株式の期中平均株式数(株)	27,777,438	27,620,391

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成27年 3月31日)	当連結会計年度 (平成28年 3月31日)
純資産の部の合計額(千円)	18,604,533	18,533,034
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	-	-
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	18,604,533	18,533,034
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(株)	27,774,538	26,774,055

(重要な後発事象)

平成28年6月23日開催の第54期定時株主総会において、当社の取締役(社外取締役を除く)に対して株式報酬型ストックオプションを導入することが決議されました。

なお、株式報酬型ストックオプションの内容につきましては、「第4 提出会社の状況 1. 株式等の状況 (9)ストックオプション制度の内容」に記載しております。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	954,441	550,154	0.732	-
1年以内に返済予定の長期借入金	629,086	547,644	1.535	-
1年以内に返済予定のリース債務	20,257	19,073	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	1,193,738	830,648	1.699	平成29年～平成32年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	28,294	28,845	-	平成29年～平成33年
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	2,825,817	1,976,364	-	-

(注) 1 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

なお、リース債務は、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額で連結貸借対照表に計上しておりますので、リース債務についての「平均利率」は記載しておりません。

2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	402,824	352,824	50,000	25,000
リース債務	13,224	7,646	4,504	3,469

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首および当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首および当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	5,501,550	12,905,955	18,564,232	25,100,383
税金等調整前四半期(当期)純利益金額 (千円)	432,237	1,809,984	2,302,235	2,520,370
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益金額 (千円)	222,404	1,137,806	1,493,520	1,710,628
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	8.01	40.97	53.77	61.93

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 (円)	8.01	32.96	12.81	7.96

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,616,359	1,911,613
受取手形	218,468	54,556
売掛金	2,016,845	2,106,329
商品	129,247	113,960
製品	948,223	902,528
半製品	620,241	581,889
原材料	296,268	304,321
仕掛品	781,365	790,862
貯蔵品	104,685	162,468
前払費用	56,942	54,501
繰延税金資産	313,915	318,879
その他	70,768	121,097
貸倒引当金	1,473	1,986
流動資産合計	7,171,859	7,421,022
固定資産		
有形固定資産		
建物	7,949,392	8,110,851
減価償却累計額	5,638,591	5,738,667
建物(純額)	2,310,800	2,372,184
構築物	480,001	503,142
減価償却累計額	431,729	428,965
構築物(純額)	48,271	74,177
機械及び装置	3,112,742	3,112,253
減価償却累計額	2,342,231	2,450,085
機械及び装置(純額)	770,511	662,167
車両運搬具	125,399	142,316
減価償却累計額	104,710	109,889
車両運搬具(純額)	20,689	32,426
工具、器具及び備品	1,411,414	1,402,108
減価償却累計額	1,265,564	1,278,514
工具、器具及び備品(純額)	145,849	123,593
土地	4,323,567	4,218,226
リース資産	137,005	116,413
減価償却累計額	91,758	72,689
リース資産(純額)	45,246	43,724
建設仮勘定	81,946	9,648
有形固定資産合計	7,746,882	7,536,148
無形固定資産		
ソフトウェア	164,045	160,719
ソフトウェア仮勘定	-	15,865
その他	6,349	7,508
無形固定資産合計	170,394	184,093

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	892,188	679,731
関係会社株式	3,411,201	3,501,201
出資金	7,170	7,170
関係会社出資金	453,996	56,877
従業員に対する長期貸付金	1,636	2,433
破産更生債権等	3,907	2,180
長期前払費用	13,847	16,950
前払年金費用	1,510,326	1,436,927
その他	30,655	76,396
貸倒引当金	3,907	2,180
投資その他の資産合計	6,321,022	5,777,688
固定資産合計	14,238,299	13,497,930
資産合計	21,410,158	20,918,952
負債の部		
流動負債		
支払手形	126,764	147,882
買掛金	536,830	476,419
短期借入金	400,000	460,000
1年内返済予定の長期借入金	412,780	344,820
リース債務	20,257	19,073
未払金	339,750	217,165
未払費用	318,476	322,521
未払法人税等	192,538	576,060
前受金	400,150	155,586
預り金	26,952	28,020
賞与引当金	618,264	663,402
役員賞与引当金	53,200	66,300
設備関係支払手形	190,458	69,533
その他	107,340	52,307
流動負債合計	3,743,764	3,599,093
固定負債		
長期借入金	544,820	425,000
リース債務	28,013	28,666
繰延税金負債	574,464	458,723
再評価に係る繰延税金負債	519,007	468,958
訴訟損失引当金	73,278	73,278
資産除去債務	10,510	10,510
その他	47,938	47,156
固定負債合計	1,798,033	1,512,293
負債合計	5,541,798	5,111,387

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,351,750	7,351,750
資本剰余金		
資本準備金	2,860,750	2,860,750
その他資本剰余金	4,200,000	4,200,000
資本剰余金合計	7,060,750	7,060,750
利益剰余金		
利益準備金	409,094	409,094
その他利益剰余金		
別途積立金	4,360,000	5,360,000
繰越利益剰余金	2,015,365	1,727,586
利益剰余金合計	6,784,460	7,496,681
自己株式	177,312	782,593
株主資本合計	21,019,647	21,126,587
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	194,510	50,723
土地再評価差額金	5,345,797	5,369,745
評価・換算差額等合計	5,151,287	5,319,022
純資産合計	15,868,360	15,807,565
負債純資産合計	21,410,158	20,918,952

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)	当事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)
売上高		
製品売上高	9,458,020	10,212,055
商品売上高	1,025,830	646,275
その他の売上高	3,626,316	3,957,090
売上高合計	14,110,167	14,815,421
売上原価		
製品期首たな卸高	855,895	948,223
商品期首たな卸高	131,250	129,247
当期製品製造原価	5,191,528	5,356,952
当期商品仕入高	770,124	437,649
その他の原価	1,108,170	1,315,375
合計	8,056,968	8,187,448
製品期末たな卸高	948,223	902,528
商品期末たな卸高	129,247	113,960
売上原価合計	6,979,496	7,170,959
売上総利益	7,130,670	7,644,462
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	143,720	136,382
荷造運搬費	208,936	233,784
貸倒引当金繰入額	137	-
販売手数料	43,982	46,334
納入試験費	30,373	30,279
販売促進費	17,555	17,201
役員報酬	143,680	120,930
給料及び手当	2,149,930	2,216,099
賞与引当金繰入額	359,484	391,314
役員賞与引当金繰入額	53,200	66,300
退職給付費用	291,813	252,896
法定福利費	317,191	357,361
福利厚生費	73,802	83,956
旅費及び交通費	315,050	319,852
交際費	8,829	9,491
通信費	42,510	40,131
賃借料	127,744	131,660
消耗品費	43,122	25,630
水道光熱費	62,346	54,235
減価償却費	216,103	238,243
租税公課	135,538	187,086
研究開発費	673,684	723,499
支払手数料	33,926	38,753
その他	281,932	283,711
販売費及び一般管理費合計	5,774,599	6,005,136
営業利益	1,356,071	1,639,325

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)	当事業年度 (自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日)
営業外収益		
受取利息	1,536	1,543
受取配当金	115,830	179,440
受取手数料	10,154	9,849
物品売却益	17,534	12,314
為替差益	10,287	2,492
補助金収入	16,784	-
電力販売収益	27,636	26,281
その他	37,435	35,368
営業外収益合計	237,201	267,290
営業外費用		
支払利息	17,967	12,436
電力販売費用	20,550	19,650
その他	4,553	5,897
営業外費用合計	43,070	37,983
経常利益	1,550,201	1,868,632
特別損失		
減損損失	67,522	-
特別損失合計	67,522	-
税引前当期純利益	1,482,679	1,868,632
法人税、住民税及び事業税	213,162	642,731
法人税等調整額	87,061	76,551
法人税等合計	126,100	566,180
当期純利益	1,356,578	1,302,452

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	7,351,750	2,860,750	4,200,000	7,060,750
会計方針の変更による 累積的影響額				
会計方針の変更を反映し た当期首残高	7,351,750	2,860,750	4,200,000	7,060,750
当期変動額				
資本準備金の取崩				
剰余金の配当				
当期純利益				
別途積立金の積立				
別途積立金の取崩				
自己株式の取得				
土地再評価差額金の取崩				
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	7,351,750	2,860,750	4,200,000	7,060,750

	株主資本					自己株式	株主資本合計
	利益剰余金				利益剰余金合計		
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計			
		別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	409,094	3,160,000	1,552,038	5,121,133	174,535	19,359,098	
会計方針の変更による 累積的影響額			488,040	488,040		488,040	
会計方針の変更を反映し た当期首残高	409,094	3,160,000	2,040,078	5,609,173	174,535	19,847,138	
当期変動額							
資本準備金の取崩						-	
剰余金の配当			222,233	222,233		222,233	
当期純利益			1,356,578	1,356,578		1,356,578	
別途積立金の積立		1,200,000	1,200,000	-		-	
別途積立金の取崩						-	
自己株式の取得					2,777	2,777	
土地再評価差額金の取崩			40,941	40,941		40,941	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）							
当期変動額合計	-	1,200,000	24,713	1,175,286	2,777	1,172,509	
当期末残高	409,094	4,360,000	2,015,365	6,784,460	177,312	21,019,647	

(単位：千円)

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評 価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	87,977	5,358,441	5,270,463	14,088,634
会計方針の変更による 累積的影響額				488,040
会計方針の変更を反映し た当期首残高	87,977	5,358,441	5,270,463	14,576,674
当期変動額				
資本準備金の取崩				-
剰余金の配当				222,233
当期純利益				1,356,578
別途積立金の積立				-
別途積立金の取崩				-
自己株式の取得				2,777
土地再評価差額金の取崩		40,941	40,941	-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	106,533	53,584	160,117	160,117
当期変動額合計	106,533	12,643	119,176	1,291,686
当期末残高	194,510	5,345,797	5,151,287	15,868,360

当事業年度(自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	7,351,750	2,860,750	4,200,000	7,060,750
会計方針の変更による累積的影響額				
会計方針の変更を反映した当期首残高	7,351,750	2,860,750	4,200,000	7,060,750
当期変動額				
資本準備金の取崩				
剰余金の配当				
当期純利益				
別途積立金の積立				
別途積立金の取崩				
自己株式の取得				
土地再評価差額金の取崩				
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)				
当期変動額合計	-	-	-	-
当期末残高	7,351,750	2,860,750	4,200,000	7,060,750

	株主資本					自己株式	株主資本合計
	利益準備金	利益剰余金		利益剰余金合計			
		別途積立金	繰越利益剰余金				
当期首残高	409,094	4,360,000	2,015,365	6,784,460	177,312	21,019,647	
会計方針の変更による累積的影響額				-		-	
会計方針の変更を反映した当期首残高	409,094	4,360,000	2,015,365	6,784,460	177,312	21,019,647	
当期変動額							
資本準備金の取崩						-	
剰余金の配当			638,811	638,811		638,811	
当期純利益			1,302,452	1,302,452		1,302,452	
別途積立金の積立		1,000,000	1,000,000	-		-	
別途積立金の取崩						-	
自己株式の取得					605,281	605,281	
土地再評価差額金の取崩			48,580	48,580		48,580	
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	-	1,000,000	287,778	712,221	605,281	106,939	
当期末残高	409,094	5,360,000	1,727,586	7,496,681	782,593	21,126,587	

(単位：千円)

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券評 価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	194,510	5,345,797	5,151,287	15,868,360
会計方針の変更による 累積的影響額				-
会計方針の変更を反映し た当期首残高	194,510	5,345,797	5,151,287	15,868,360
当期変動額				
資本準備金の取崩				-
剰余金の配当				638,811
当期純利益				1,302,452
別途積立金の積立				-
別途積立金の取崩				-
自己株式の取得				605,281
土地再評価差額金の取崩		48,580	48,580	-
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	143,787	24,633	119,154	119,154
当期変動額合計	143,787	23,947	167,735	60,795
当期末残高	50,723	5,369,745	5,319,022	15,807,565

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1)子会社株式

移動平均法に基づく原価法を採用しております。

(2)その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法に基づく原価法を採用しております。

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1)商品、製品、半製品、仕掛品

個別法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

(2)原材料

移動平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

(3)貯蔵品

最終仕入原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

3 固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 10～65年

機械及び装置 6～17年

工具、器具及び備品 2～15年

(2)無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

ただし、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3)リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産の減価償却の方法は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4)長期前払費用

期限内均等償却を採用しております。

4 引当金の計上基準

(1)貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2)賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3)役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき、当事業年度に見合う額を計上しております。

(4)退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異及び過去勤務費用は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

なお、当事業年度末においては、年金資産の見込額が退職給付債務の見込額に未認識過去勤務費用および未認識数理計算上の差異を加減した額を超過しているため、前払年金費用を投資その他の資産に計上しております。

また、退職給付信託を設定しております。

(5)訴訟損失引当金

訴訟に対する損失に備えるため、将来発生する可能性のある損失を見積り必要額を計上しております。

5 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

6 ヘッジ会計の方法

(1)ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、為替予約について振当処理の要件を満たしている場合は、振当処理を採用しております。

(2)ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段...為替予約

ヘッジ対象...外貨建債権

(3)ヘッジ方針

外貨建取引のうち当社に為替変動リスクが帰属する場合は、そのリスクヘッジのため実需原則に基づき為替予約取引を行うものとしております。

(4)ヘッジ有効性評価の方法

ヘッジ対象のキャッシュ・フロー変動の累計又は相場変動とヘッジ手段のキャッシュ・フロー変動の累計又は相場変動を半期ごとに比較し、両者の変動額等を基礎にして、ヘッジ有効性を評価しております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1)退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異、未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結貸借対照表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2)消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(貸借対照表関係)

保証債務

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
ORANGE BAKERY, INC.	1,297,836千円	698,616千円
RHEON AUTOMATIC MACHINERY GmbH	70,078千円	98,755千円
(株)レオンアルミ	10千円	10千円
計	1,367,924千円	797,381千円

(損益計算書関係)

各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
製品売上高	2,501,364千円	2,853,087千円
商品売上高	22,648千円	582千円
その他の売上高	795,721千円	919,507千円
受取配当金	100,000千円	161,730千円

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式及び関連会社株式の時価を記載していません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりです。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
子会社株式	3,411,201	3,501,201

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
繰延税金資産		
たな卸資産	121,895千円	118,687千円
賞与引当金	202,976千円	203,598千円
役員賞与引当金	17,465千円	20,347千円
固定資産	106,711千円	100,374千円
試作研究費	98,252千円	104,492千円
未払費用	3,053千円	828千円
投資有価証券	1,593千円	1,513千円
貸倒引当金	1,493千円	1,269千円
退職給付引当金	144,718千円	145,514千円
訴訟損失引当金	23,557千円	22,339千円
資産除去債務	3,369千円	3,201千円
未払金	18,314千円	3,263千円
長期未払金	14,590千円	13,912千円
未払社会保険料	28,722千円	29,152千円
関係会社出資金	329,815千円	325,923千円
関係会社株式	168,429千円	160,024千円
その他	43,151千円	61,766千円
繰延税金資産小計	1,328,110千円	1,316,209千円
評価性引当額	1,012,661千円	996,147千円
繰延税金負債と相殺	1,533千円	1,182千円
繰延税金資産合計	313,915千円	318,879千円
繰延税金負債		
前払年金費用	484,210千円	437,688千円
その他有価証券評価差額金	91,787千円	22,217千円
繰延税金負債小計	575,997千円	459,905千円
繰延税金資産と相殺	1,533千円	1,182千円
繰延税金負債合計	574,464千円	458,723千円
繰延税金負債の純額	260,548千円	139,843千円
再評価に係る繰延税金負債		
土地再評価差額金	519,007千円	468,958千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
法定実効税率	35.4%	32.8%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.2%	0.4%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	2.5%	3.4%
住民税均等割	0.9%	0.8%
役員賞与引当金	1.2%	0.9%
評価性引当額	22.1%	1.8%
源泉税	0.1%	0.1%
税額控除	5.5%	5.3%
税率変更による影響額	1.7%	0.6%
その他	0.9%	1.6%
法人税等実際負担率	8.5%	30.3%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」が平成28年3月29日に国会で成立したことに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算(ただし、平成28年4月1日以降解消されるものに限る)に使用した法定実効税率は、主に前事業年度の32.8%から、回収又は支払が見込まれる期間が平成28年4月1日から平成30年3月31日までのものは30.7%、平成30年4月1日以降のものについては30.5%にそれぞれ変更されております。

その結果、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)は、9,867千円減少し、法人税等調整額が8,700千円減少し、その他有価証券評価差額金が1,167千円増加しております。

また、再評価に係る繰延税金負債は24,633千円減少し、土地再評価差額金が同額増加しております。

(重要な後発事象)

平成28年6月23日開催の第54期定時株主総会において、当社の取締役(社外取締役を除く)に対して株式報酬型ストックオプションを導入することが決議されました。

なお、株式報酬型ストックオプションの内容につきましては、「第4 提出会社の状況 1. 株式等の状況 (9)ストックオプション制度の内容」に記載しております。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	7,949,392	229,769	68,309 (-)	8,110,851	5,738,667	157,468	2,372,184
構築物	480,001	35,223	12,081 (-)	503,142	428,965	9,317	74,177
機械及び装置	3,112,742	27,349	27,838 (268)	3,112,253	2,450,085	132,233	662,167
車両運搬具	125,399	26,042	9,125 (-)	142,316	109,889	14,305	32,426
工具、器具及び備品	1,411,414	59,616	68,922 (189)	1,402,108	1,278,514	81,364	123,593
土地	4,323,567	-	105,340 (660)	4,218,226	-	-	4,218,226
リース資産	137,005	19,501	40,093	116,413	72,689	19,969	43,724
建設仮勘定	81,946	172,098	244,396	9,648	-	-	9,648
有形固定資産計	17,621,469	569,600	576,108 (1,118)	17,614,961	10,078,812	414,659	7,536,148
無形固定資産							
ソフトウェア	389,111	51,730	44,432	396,408	235,688	55,055	160,719
ソフトウェア仮勘定	-	17,634	1,769	15,865	-	-	15,865
その他	6,349	1,205	-	7,555	47	47	7,508
無形固定資産計	395,461	70,570	46,201	419,829	235,736	55,102	184,093
長期前払費用	31,655	7,945	1,000	38,601	21,651	4,842	16,950

(注) 1 当期増加額の主なものは次のとおりであります。

建物(社宅寮新築工事) 131,669千円
 ソフトウェア(業務支援ソフト) 36,643千円

- 2 当期減少額のうち()内は減損損失の金額であります。
 3 建物の当期減少額は、売却による減少33,728千円、除却による減少34,580千円であります。
 4 工具、器具及び備品の当期減少額は、除却による減少68,733千円であります。
 5 土地の当期減少額は、売却による減少104,680千円などであります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	5,380	4,166	988	4,392	4,166
賞与引当金	618,264	663,402	618,264	-	663,402
役員賞与引当金	53,200	66,300	53,200	-	66,300
訴訟損失引当金	73,278	-	-	-	73,278
退職給付引当金	1,510,326	123,231	196,630	-	1,436,927

(注) 1 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」のうち、4,319千円は洗替、72千円は債権の回収による戻し入れであります。

2 退職給付引当金は、貸借対照表の投資その他の資産に「前払年金費用」として表示しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	電子公告により行う。やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行う。 なお、電子公告は当社ウェブサイトに掲載しております。 http://www.rheon.com
株主に対する特典	該当事項なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株式を有する株主は、その有する単元未満株式について、以下の権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 取得請求権付株式の取得を請求する権利
- (3) 募集株式または募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第53期(自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)平成27年6月30日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成27年6月30日関東財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第54期第1四半期(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)平成27年8月7日関東財務局長に提出。

第54期第2四半期(自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)平成27年11月10日関東財務局長に提出。

第54期第3四半期(自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日)平成28年2月9日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

平成27年6月30日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書であります。

平成28年6月27日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書であります。

(5) 自己株券買付状況報告書

平成28年3月8日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成28年6月24日

レオン自動機株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加藤 博 久

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鎌田 竜彦

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているレオン自動機株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、レオン自動機株式会社及び連結子会社の平成28年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、レオン自動機株式会社の平成28年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、レオン自動機株式会社が平成28年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成28年 6 月24日

レオン自動機株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 加 藤 博 久

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鎌 田 竜 彦

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているレオン自動機株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第54期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、レオン自動機株式会社の平成28年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。